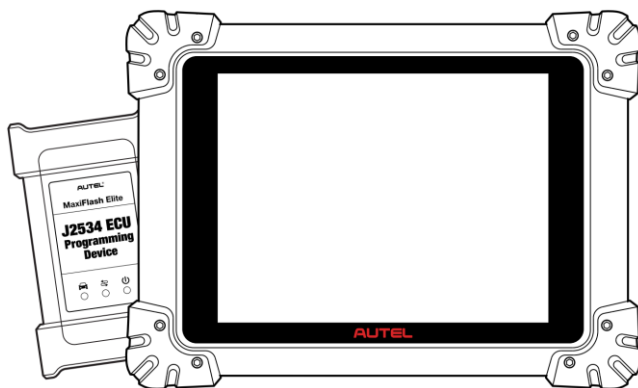


MaxiSys MS908CV II



特許

本製品は、米国およびその他の国における特許により保護されています。詳細については、<https://autel.us/virtual-patents/>。

商標

Autel[®]、MaxiSys[®]、MaxiDAS[®]、MaxiScan[®]、MaxiTPMS[®]、MaxiRecorder[®]、および MaxiCheck[®] は、中国、米国、およびその他の国で登録された Autel Intelligent Technology Corp.その他のマークは、各所有者の商標または登録商標です。

著作権情報

本マニュアルのいかなる部分も、Autel の書面による事前の許可なく、電子的、機械的、複写、記録、その他いかなる形式または手段によっても、複製、検索システムへの保存、または転送することを禁じます。

保証の免責および責任の制限

本取扱説明書に記載されているすべての情報、仕様、イラストは、印刷時点で入手可能な最新の情報に基づいています。

オーテルは予告なしにいつでも変更する権利を有します。本マニュアルの情報は正確を期して慎重にチェックされていますが、製品の仕様、機能、イラストを含むがこれに限定されない内容の完全性、正確性を保証するものではありません。

オーテルは、本製品を使用したことによる直接的、特別、偶発的、間接的な損害、または経済的な結果的損害(利益の損失を含む)に対して一切の責任を負いません。

❗ 重要

本機を操作または保守する前に、安全に関する警告と注意事項に特に注意し、本マニュアルをよくお読みください。

サービスおよびサポート



pro.autel.com

<https://www.autel.com/jp/>



045-548-6282 (日本)



support.jp@autel.com

その他の市場におけるテクニカルサポートについては、本書の [テクニカルサポート](#) を参照してください。

安全に関する情報

あなた自身と他の人の安全のために、そして装置とそれを使用する車両の損傷を防ぐために、このマニュアルに記載されている安全に関する指示を、装置を操作する、または装置に接触するすべての人が読み、理解することが重要です。

車両の整備には、作業を行う人のスキルだけでなく、多くの手順、技術、工具、部品が必要です。本装置でテストできる製品は膨大な数のテスト用途とバリエーションがあるため、あらゆる状況を想定したり、アドバイスや安全に関するメッセージを提供したりすることはできません。試験対象のシステムに関する知識を持つことは、自動車技術者の責任です。適切な整備方法と試験手順を用いることが極めて重要です。自分の安全、作業場にいる他の人の安全、使用されている装置、テストされている車両を危険にさらすことのないよう、適切かつ容認できる方法でテストを実施することが不可欠です。

本装置を使用する前に、必ず被試験車両または装置の製造元が提供する安全メッセージおよび該当する試験手順を参照し、それに従ってください。本装置は、本取扱説明書に記載されている方法でのみ使用してください。本取扱説明書に記載されているすべての安全メッセージと指示を必ず読み、理解し、それに従ってください。

安全に関するメッセージ

安全に関するメッセージは、人身事故や装置の損傷を防ぐために記載されています。すべての安全メッセージは、危険レベルを示すシグナルワードで始まります。

危険

回避しなければ、運転者または傍観者が死亡または重傷を負う可能性のある、差し迫った危険な状況を示します。

警告

回避しなければ、操作者または傍観者が死亡または重傷を負う可能性がある、潜在的に危険な状況を示します。

安全に関する指示

ここに記載されている安全に関するメッセージは、発行時点で Autel が認識している状況を対象としています。オーテルは、起こりうる危険のすべてを把握、評価、助言することはできません。どのような状況またはサービス手順であっても、お客様の身の安全を脅かすものではないことをご確認ください。

危険

エンジンが運転されているときは、整備エリア を換気しておくか、建物の排気装置をエンジンの排気装置に接続してください。エンジンは、無臭で有毒なガスである一酸化炭素を発生し、反応速度を低下させ、重大な人身事故や死亡事故につながる恐れがあります。

ヘッドホンを大音量で使用することはお勧めしません。

長時間、大音量で聞いていると、聴力を失う恐れがあります。

安全に関する警告

- 常に安全な環境で自動車試験を実施してください。
- ANSI 規格に適合した安全保護眼鏡を着用してください。
- 衣服、頭髮、手、工具、試験装置などを可動部品や高温のエンジン部品に近づけないでください。
- 排気ガスは有毒であるため、換気の良い作業場で車両を操作してください。
- トランスミッションを PARK(オートマチック・トランスミッションの場合)または NEUTRAL(マニュアルトランスミッションの場合)に入れ、パーキングブレーキがかかっていることを確認してください。
- 試験中は、駆動輪の前にブロックを置き、絶対に車両を放置しないでください。
- イグニッション・コイル、ディストリビューター・キャップ、イグニッション・ワイヤー、スパーク・プラグの周囲で作業する場合は、特に注意してください。これらの部品は、エンジン作動中に危険な電圧を発生させます。
- ガソリン、化学薬品、電気系統の火災に適した消火器を近くに置いてください。
- イグニッションがオンになっていたり、エンジンが回転していたりする状態で、試験装置を接続したり取り外したりしないでください。
- 試験装置は、油、水、グリースが付着していない、乾燥した清潔な状態に保ってください。必要に応じて、きれいな布に中性洗剤をつけて装置の外側を清掃してください。
- 車両の運転と試験装置の操作を同時に行わないでください。注意力が散漫になると事故の原因となります。
- 整備する車両のサービス・マニュアルを参照し、すべての診断手順と注意事項を遵守してください。これを怠ると、人身事故や試験装置の損傷につながる恐れがあります。
- テスト装置の損傷や誤ったデータの発生を避けるため、車両のバッテリーが完全に充電され、車両 DLC への接続がクリーンで確実であることを確認してください。
- 試験装置を車両のディストリビューター上に置かないでください。強い電磁波の干渉により、装置が損傷することがあります。

目次

1	このマニュアルの使い方	1
1.1	本書の内容	1
1.1.1	太字	1
1.1.2	注意と重要なメッセージ	1
1.1.3	ハイパーリンク	1
1.1.4	イラスト	1
1.1.5	手続き	2
2	一般的な紹介	3
2.1	MAXISys MS908CV II タブレット	3
2.1.1	機能説明	3
2.1.2	電源	5
2.1.3	技術仕様	5
2.2	MAXIFLASH ELITE - J2534 ECU プログラミングデバイス	7
2.2.1	機能説明	7
2.2.2	電源	8
2.2.3	技術仕様	8
2.3	アクセサリキット	9
2.3.1	メインケーブル	9
2.3.2	OBDI タイプアダプター	10
2.3.3	その他のアクセサリ	10
3	はじめに	12
3.1	パワーアップ	12
3.1.1	アプリケーションボタン	13
3.1.2	ロケーターとナビゲーションボタン	14

3.1.3	システムステータスアイコン	16
3.2	パワーダウン	16
3.2.1	システムの再起動.....	16
4	診断	17
4.1	車両通信の確立と選択	17
4.1.1	車両通信の確立.....	17
4.2	スタート.....	21
4.2.1	車両メニューのレイアウト	21
4.3	車両識別	23
4.3.1	自動 VIN スキャン	23
4.3.2	手動入力	25
4.3.3	VIN/ライセンススキャン	25
4.3.4	マニュアル車両選択.....	27
4.3.5	OBDII ダイレクト入力	27
4.4	ナビゲーション	27
4.4.1	診断画面レイアウト.....	27
4.4.2	画面メッセージ	30
4.5	診断メニュー	31
4.6	診断機能	31
4.6.1	ECU 情報.....	34
4.6.2	トラブルコード.....	35
4.6.3	ライブデータ	36
4.6.4	アクティブテスト	44
4.6.5	特殊機能	45
4.7	プログラミングとコーディング	45
4.7.1	コーディング	46

4.7.2	再プログラミング	46
4.7.3	再フラッシュエラー	47
4.8	一般的な OBDII 操作	47
4.8.1	一般的な手順	48
4.8.2	機能の記述	49
4.9	診断レポート	51
4.9.1	プレスキャンおよびポストスキャン機能	51
4.9.2	診断レポートの保存、表示、共有	52
4.10	診断の終了	56
5	サービス	58
5.1	オイルリセットサービス	58
5.2	電動パーキングブレーキ (EPB) サービス	59
5.2.1	EPB セーフティ	59
5.3	タイヤ空気圧モニタリングシステム (TPMS) サービス	59
5.4	バッテリー管理システム (BMS) サービス	60
5.5	ディーゼル粒子フィルター (DPF) サービス	60
5.6	イモビライザー (IMMO) サービス	61
5.7	ステアリングアングルセンサー (SAS) サービス	61
6	データマネージャー	63
6.1	車両履歴	64
6.1.1	テスト履歴	65
6.2	ワークショップ情報	66
6.3	顧客情報	67
6.4	画像	68
6.5	クラウドレポート	69
6.6	PDF ファイル	69

6.7	レビューデータ	69
6.8	データロギング	70
6.9	アプリのアンインストール	70
7	設定	71
7.1	ユニット	71
7.2	言語設定	71
7.3	印刷設定	72
7.3.1	印刷操作	72
7.4	スキャンレポート	73
7.5	プッシュ通知	73
7.6	自動更新	74
7.7	車両リスト	74
7.8	システム設定	75
7.9	VCI について	75
8	VCI マネージャー	76
8.1	VCI BLUETOOTH ペアリング	77
8.2	BAS ブルートゥースペアリング	77
8.3	VCI アップデート	78
8.3.1	タブレットからの更新	78
8.3.2	PC からのアップデート	78
8.4	BAS アップデート	79
9	サポート	80
9.1	サポート画面レイアウト	80
9.2	マイアカウント	80
9.2.1	個人情報	80
9.2.2	更新情報	81

9.2.3	サービス情報.....	81
9.3	トレーニング.....	81
9.4	操作マニュアル.....	81
9.5	データロギング.....	81
9.6	よくあるご質問.....	82
10	リモートデスクトップ.....	83
10.1	操作方法.....	83
11	更新情報.....	85
12	クイックリンク.....	86
13	ユーザーフィードバック.....	87
14	MAXIVIEWER.....	88
15	マキシビデオ.....	89
16	マキシスコープ.....	90
17	バッテリーテスト.....	91
17.1	MAXIBAS BT506 バッテリー・テスター.....	92
17.1.1	機能説明.....	92
17.1.2	電源.....	93
17.2	技術仕様.....	93
17.3	テストの準備.....	94
17.3.1	バッテリーの点検.....	94
17.3.2	バッテリーテスターの接続.....	94
17.4	車載テスト.....	95
17.4.1	バッテリーテスト.....	97
17.4.2	スターターテスト.....	98
17.4.3	発電機テスト.....	99
17.5	車外テスト.....	101
17.5.1	試験手順.....	101

17.5.2 テスト結果	102
18 ユーザーセンター	103
19 メンテナンスとサービス	105
19.1 メンテナンス手順	105
19.2 トラブルシューティングチェックリスト	106
19.3 バッテリーの使用について	106
19.4 サービス手順	107
19.4.1 テクニカルサポート	107
19.4.2 修理サービス	109
19.4.3 その他のサービス	109
20 コンプライアンス情報	111
21 保証について	113

1 本マニュアルの使い方

本書には、機器の使用方法が記載されています。

本マニュアルに掲載されているイラストの中には、お使いのシステムに含まれていないモジュールやオプション機器が含まれている場合があります。

1.1 慣例

本マニュアルでは、以下の規則を使用しています：

1.1.1 太字テキスト

太字は、ボタンやメニューオプションなど、選択可能な項目を強調するために使用します。

例

- OK をタップします。

1.1.2 メモと重要なメッセージ

1.1.2.1 ノート

ノートには、補足説明、ヒント、コメントなどの役立つ情報が記載されています。

1.1.2.2 重要

IMPORTANT は、回避しないとタブレットや車両に損傷を与える可能性がある状況を示します。

1.1.3 ハイパーリンク

ハイパーリンクは、電子文書で使用できます。青色の斜体テキストは選択可能なハイパーリンクを示し、青色の下線テキストはウェブサイトのリンクまたは電子メールアドレスのリンクを示します。

1.1.4 イラスト

本書で使用されているイラストはサンプルであり、実際のテスト画面はテストする車両ごとに異なる場合があります。メニューのタイトルと画面の指示に従って、オプションを正しく

選択してください。

1.1.5 手順

矢印のアイコンは手順を示しています。

例

- **MaxiSys タブレットをパワーダウンするには**
 1. **Power/Lock** ボタンを長押し(押し続ける)します。
 2. **【電源オフ】**をタップします。
 3. **【OK】** をタップします。

2 一般的な紹介

MaxiSys システムには 2 つの主要コンポーネントがあります：

- MS908CV II タブレット - システムの中央プロセッサおよびモニター。
- MaxiFlash Elite - 車両通信インターフェース。車両データへのアクセスに使用します。

本マニュアルでは、両デバイスの構造と操作、およびそれらがどのように連携して診断ソリューションを提供するかについて説明します。

2.1 MaxiSys MS908CV II タブレット

2.1.1 機能説明

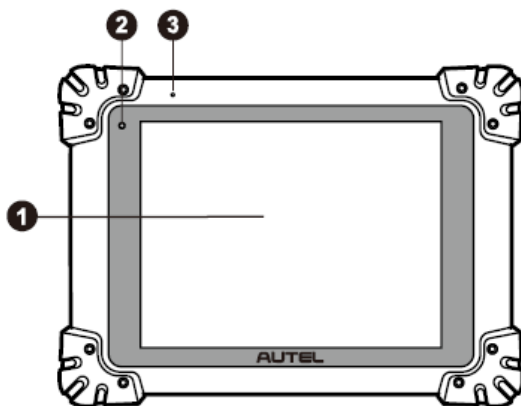


図 -21 タブレット正面図

1. 9.7" LED 静電容量式 タッチスクリーン
2. 周囲光センサー - 周囲の明るさを検出します。
3. マイク

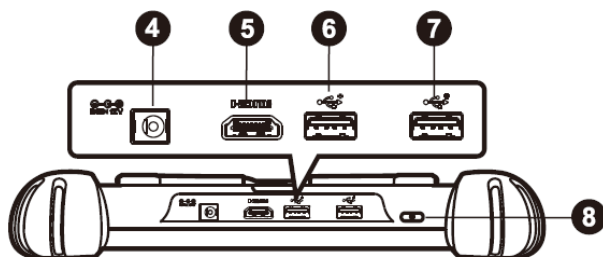


図 -22 タブレット上面図

4. DC 電源入力ポート
5. HDMI(高品位マルチメディアインターフェース)ポート
6. USB ポート
7. USB ポート
8. 電源/ロックボタン - 長押しでデバイスをオン/オフ、短押しで画面をロックします。

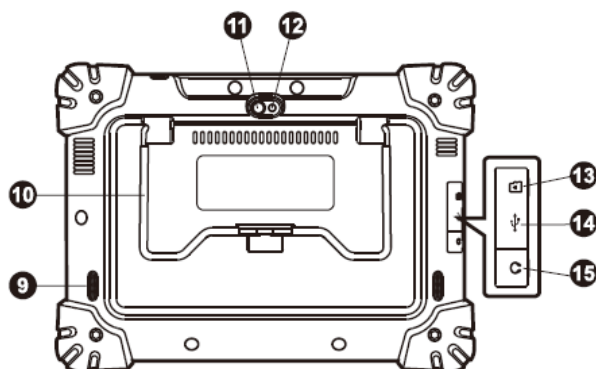


図 -23 タブレット背面図

9. オーディオスピーカー
10. 折りたたみ式スタンド - 背面から伸びるので、ハンズフリーでタブレットを見ることができます。
11. 背面カメラ
12. カメラフラッシュ
13. ミニ SD カードスロット
14. ミニ USB ポート

2.1.2 電源

タブレットは、以下のいずれかの電源から電力を得ることができます：

- 内蔵バッテリーパック
- AC/DC 電源
- 車両電源

❶ 重要

温度が 0 °C (32 °F)より低いとき、または 45 °C (113 °F)より高いときは、バッテリーを充電しないでください。

2.1.2.1 内蔵バッテリーパック

タブレットは内蔵の充電式バッテリーで給電することができ、フル充電した場合、約 8 時間の連続動作に十分な電力を供給することができます。

2.1.2.2 AC/DC 電源 - 電源アダプタを使用

タブレットは、AC/DC 電源アダプタを使用してコンセントから給電できます。AC/DC 電源は内蔵バッテリーパックの充電も行います。

2.1.2.3 車両電源

タブレットは、ケーブルで直接接続することにより、補助電源アダプタまたは試験車両のその他の DC 電源ポートから給電することができます。車両電源ケーブルは、タブレット上面の DC 電源ポートに接続します。

2.1.3 技術仕様

表 -21 タブレット仕様

項目	仕様
オペレーティング・システム	アンドロイド 10
プロセッサ	オクタコアプロセッサ(4 x 2.2 GHz + 4 x 1.8 GHz)
メモリ	4 GB RAM & 128 GB オンボードメモリ
ディスプレイ	9.7 インチ LED 静電容量式タッチスクリーン(解像度 2048 x 1536

項目	仕様
コネクティビティ	● Wi-Fi(802.11 a/b/g/n/ac) ● USB 2.0 ● ブルートゥース v5.0 + EDR ● SD カード(最大 64GB まで対応) ● HDMI
カメラ(背面)	16.0 メガピクセル、懐中電灯付きオートフォーカス
センサー	● 重力加速度センサー ● 環境光センサー(ALS)
オーディオ 入力/出力	● マイク ● デュアルスピーカー ● 3 バンド 3.5mm ステレオ/標準ヘッドセットジャック
電源とバッテリー	● 11000 mAh 3.7 V リチウムポリマーバッテリー ● 12 V AC/DC 電源による充電、温度範囲:0 °C ~45 °C
入力電圧	12 V (9-24 V)
消費電力	6.5 W
動作温度	0 °C~50 °C (32 °F~122 °F)
保存温度	-20 °C ~ 60 °C (-4 °F ~ 140 °F)
外形寸法 (幅×高さ×奥行き)	300mm(11.81 インチ)×220mm(8.66 インチ)×50mm(1.97 インチ)
重量	● NW:1.42kg(3.13 ポンド) ● GW:8.655kg(19.08 ポンド)
プロトコル	ISO 9142-2、ISO 14230-2、ISO 15765-4、K/L-Line、点滅コード、SAE-J1850 VPW、SAE-J1850 PWM、CAN ISO 11898、高速、中速、低速、シングルワイヤ CAN、GM UART、UART エコーバイトプロトコル、Honda Diag-H プロトコル、TP 2.0、TP 1.6、SAE J1939、SAE J1708、フォールトフレーム CAN

2.2 MaxiFlash Elite - J2534 ECU プログラミングデバイス

2.2.1 機能説明

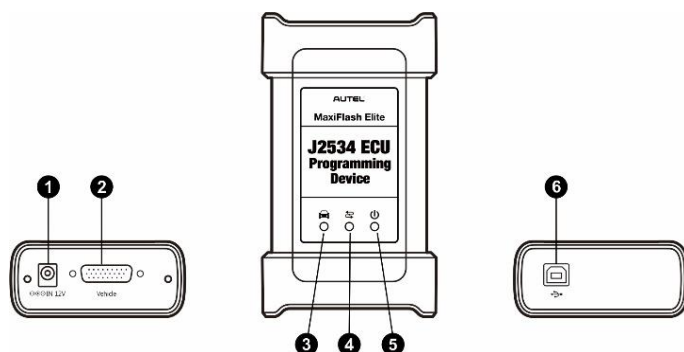


図 -24 MaxiFlash Elite のビュー

1. DC 電源入力ポート
2. 車両データコネクタ (DB26 ピン)
3. 車両 LED - デバイスが車両のシステムと通信しているときに緑色に点滅します。

！重要

この車両 LED ステータス ライトが点灯している間は、プログラミング デバイスを切断しないでください！車両の ECU が空白または部分的にしかプログラムされていない状態でフラッシュプログラミング手順を中断すると、モジュールが回復できなくなる可能性があります。

4. 接続 LED
 - デバイスが USB ケーブルでタブレットと正しく接続されている場合、緑色に点灯します。
 - デバイスが Bluetooth 接続でタブレットと正しく接続されている場合、青色に点灯します。
5. 電源 LED
 - デバイ스에電源が入ると緑色に点灯します。
 - システム障害が発生すると赤色に点滅します。
 - デバイスがセルフテスト手順を実行している場合、電源投入時に自動的に琥珀色に点灯します。
6. USB ポート

2.2.1.1 プログラミング機能

MaxiFlash Elite は、SAE J2534-1 & -2 準拠の PassThru プログラミングインターフェイスデバイスです。更新された OEM ソフトウェアを使用して、電子制御ユニット (ECU) 内の既存ソフトウェア/ファームウェアの交換、新しい ECU のプログラミング、ソフトウェア制御によるドライバビリティおよびエミッション問題の修正が可能です。

2.2.1.2 通信機能

マキシフラッシュエリートは、ブルートゥース (BT) と USB ケーブルの 2 種類の通信方式に対応しています。ケーブル接続の有無にかかわらず、車両データをタブレットに送信することができます。開けた場所では、BT 通信による送信機の動作範囲は最大 210 フィート (約 70m) です。圏外に持ち出されて信号が途絶えた場合でも、タブレットが圏内に入れば通信は回復する。

2.2.2 電源

マキシフラッシュエリートは以下の電源から電力を供給することができます：

- 車両電源
- AC/DC 電源

2.2.2.1 車両電源

MaxiFlash Elite は、車両データ接続ポートから供給される 12/24 V の車両電源で動作します。OBDII/EOBD 準拠のデータリンクコネクタ (DLC) に接続されると、デバイスの電源がオンになります。OBDII/EOBD 非対応車の場合は、補助電源ケーブルを使用して、補助電源コンセントアダプターまたはテスト車両の他の適切な電源ポートからデバイスに電力を供給することができます。

2.2.2.2 AC/DC 電源

MaxiFlash エリートは、AC/DC 電源アダプターを使用して壁コンセントから電源を供給することができます。

2.2.3 技術仕様

表 -22 MaxiSys Elite 仕様

項目	仕様
通信機能	● ワイヤレス BT V2.1 + EDR ● USB 2.0
無線周波数	ワイヤレス BT V2.1 + EDR、2.4 GHz

項目	仕様
入力電圧範囲	12 V DC～24 V DC
供給電流	170 mA @ 12 V DC 100 mA @ 24 V DC
動作温度	0 °C～60 °C(32 °F～140 °F)(周囲温度)
保存温度	-20 °C～70 °C(-4 °F～158 °F)(周囲温度)
外形寸法 (長さ×幅×高さ)	149mm (5.87 インチ) ×86mm (3.38 インチ) ×35mm(1.28 インチ)
重量	0.29kg(0.64 ポンド)

2.3 アクセサリー・キット

2.3.1 メインケーブル

OBDII/EOBD 対応車両に接続すると、Autel メインケーブルを通して MaxiFlash Elite デバイスに電源を供給することができます。メインケーブルは、マキシフラッシュエリートデバイスと車両の DLC を接続し、マキシフラッシュエリートデバイスからタブレットに車両データを送信することができます。

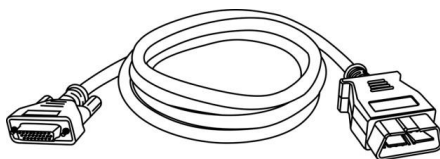


図 -25 メインケーブル(長さ 1.5m)

ⓘ 注意

マキシフラッシュエリートデバイスは Autel メインケーブルのみで接続できます。他のケーブルで接続しないでください。

2.3.2 OBDI タイプアダプター

OBDI タイプのアダプターは、OBDII 非対応車用です。使用するアダプターはテストする車種によって異なります。最も一般的なアダプターを以下に示します(アダプターは別売りの場合があります。詳しくは販売店にお問い合わせください)。



JW1_{x2}



JW2_{x2}



JW3_{x2}



JW4_{x2}



JW5_{x2}



JW6_{x2}



JW7_{x2}



JW8_{x2}



JW9_{x2}



JW10_{x2}



UNI-4



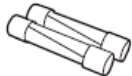
Deutsch-6



Deutsch-9

2.3.3 その他アクセサリー

	USB ケーブル タブレットと MaxiSys Elite デバイスを接続します。
	ミニ USB ケーブル タブレットと PC を接続します。
	AC/DC 外部電源アダプター タブレットを外部 DC 電源ポートに接続して電源を供給します。

	補助電源コンセントアダプタ タブレットまたは MaxiSys Elite デバイスに電力を供給します。OBDII 以外の車両では DLC 接続で電力を供給できない場合があるため、車両の 補助電源コンセントアダプター レセプタクルに接続します。
	クランプケーブル 車両のバッテリーに接続することで、タブレットまたは MaxiSys Elite デバイスに電力を供給します。
	ライトヒューズ×2 補助電源コンセントアダプターの安全装置。
	USB イーサネットアダプター ネットワーク接続機能を実現します。
	OBDII 延長ケーブル メインケーブルを通して MaxiSys Elite デバイスに電力を供給するために、OBDII ポートを延長します。

3 はじめに

タブレットに十分な電源があるか、外部電源に接続されていることを確認してください。
([電源](#) を参照。)

3.1 電源投入

タブレットの右上にある電源/ロックボタンを長押しして電源を入れます。MaxiSys Job Menu 画面に入るために、Lock 画面の下から 上にスライドします。

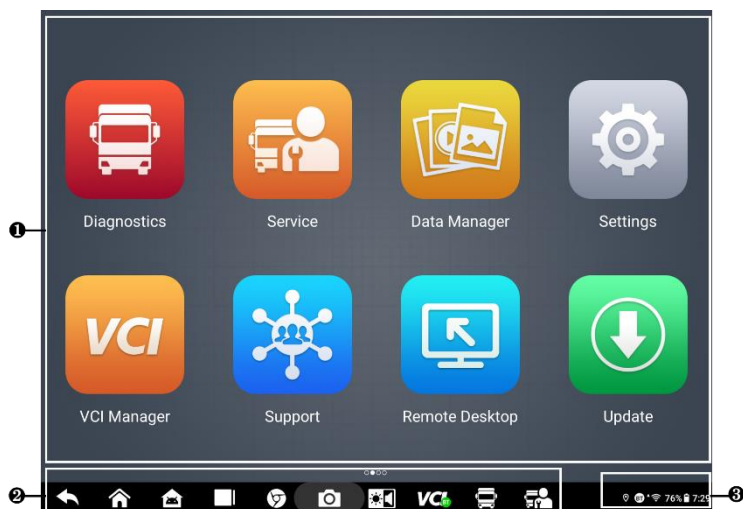


図 -31 MaxiSys ジョブメニュー

1. アプリケーションボタン
2. ロケータとナビゲーションボタン
3. ステータスアイコン

注意
システム内の情報を保護し、電力を節約するため、使用しないときは画面をロックすることを推奨します。

タブレットのほぼすべての操作は、タッチスクリーンを通して制御されます。タッチスクリー

ンのナビゲーションはメニュー駆動型で、一連の質問とオプションを通じて、必要な検査手順やデータにすばやくアクセスできます。メニュー構造の詳細については、各アプリケーションの章に記載されています。

3.1.1 アプリケーションボタン

以下の表は、MaxiSys システムの各アプリケーションについて簡単に説明したものです。

表 -31 アプリケーション

ボタン	名称	説明
	診断	診断ツールとして動作するようにユニットを設定します。 診断 を参照してください。
	サービス	特殊機能メニューにアクセスします。 サービス を参照してください。
	データ・マネージャー	詳細な車両診断やテスト記録を含む、保存された修理工場、顧客、車両データにアクセスします。 データマネージャー を参照してください。
	設定	システム設定メニューと一般タブレットメニューにアクセスします。 設定 を参照してください。
	VCI マネージャー	VCI 接続メニューにアクセスします。 VCI マネージャー を参照してください。
	サポート	Autel のオンラインサービスデータベースを MaxiSys タブレットと同期します。 サポート を参照してください。
	リモートデスクトップ	TeamViewer アプリケーションを使用してリモートサポートを受けるようにタブレットを設定します。 リモートデスクトップ を参照してください。
	アップデート	システムソフトウェアアップデートメニューにアクセスします。 アップデート を参照してください。
	クイックリンク	製品アップデート、サービス、サポート、その他の情報にすばやくアクセスできるように、関連する Web サイトのブックマークを提供します。 クイックリンク を参照してください。

ボタン	名称	説明
	デモンストレーション	診断のためのステップバイステップの操作デモンストレーションを提供します。
	ユーザーフィードバック	タブレットの使用中に問題が発生した場合、このアプリケーションを通じてフィードバックを送信できます。 ユーザーフィードバック を参照してください。
	MaxiViewer	サポートされている機能および/または車両のクイック検索を提供します。 MaxiViewer を参照してください。
	Maxi ツール	ログ収集とファクトリーリセットの 2 つの部分を含む。
	MaxiVideo	イメージヘッドケーブルに接続し、ビデオスコープデバイスとして動作するようにユニットを設定します。 マキシビデオ を参照。
	マキシスコープ	車載用オシロスコープとして使用し、電気・電子回路のテストや信号のモニタリングが可能。 MaxiScope を参照してください。
	バッテリーテスト	バッテリー・テスト・メニューにアクセスし、車載テストと車外テストの 2 つの機能を使用します。 バッテリーテスト を参照してください。
	Autel ユーザーセンター	最新のソフトウェアをダウンロードするための Autel ツールを登録できます。 Autel ユーザーセンター を参照してください。

3.1.2 ロケーターとナビゲーションボタン

画面下部のナビゲーションボタンの操作については、以下の表を参照してください。

表 -32 ロケーターとナビゲーションボタン

アイコン	名称	説明
	ロケーター	画面の位置を示します。画面を左右にスワイプすると、前後の画面が表示されます。
	戻る	前の画面に戻ります。

アイコン	名称	説明
	マキシシス ホーム	MaxiSys ジョブメニューに戻ります。
	Android ホーム	Android システムのホーム画面に戻ります。
	最近のアプリ	現在実行中のアプリケーションのリストを表示します。アプリケーションを起動するには、アプリケーションアイコンをタップします。アプリを右 または 左にスワイプして削除します。削除アイコンをタップすると、起動中のアプリがすべて削除されます。
	ブラウザ	Chrome インターネットブラウザを起動します。
	カメラ	カメラアイコンをタップしてカメラビューファインダーを開きます。アイコンを長押しすると、現在の画面のスクリーンショットが撮影されます。保存されたファイルは、後で確認できるように Data Manager アプリケーションに自動保存されます。 データマネージャー を参照してください。
	ディスプレイと サウンド	画面の明るさとオーディオ出力の音量を調整します。
	VCI ショート カット	VCI Manager アプリケーションを開きます。右下の BT またはケーブルバッジは、タブレットが VCI デバイスと通信していることを示します。タブレットが VCI デバイスに接続されていない場合は、右下に「X」バッジが表示されます。
	診断 ショート カット	診断」画面に戻ります。
	サービス	サービス画面に戻ります。

➤ カメラを使用するには

1. カメラアイコンをタップします。カメラ画面が開きます。

2. ファインダーで撮影する画像にピントを合わせます。
3. 画面右側のカメラアイコンをタップします。ファインダーに撮影した画像が表示され、撮影した写真が自動保存されます。
4. 画面右上のサムネイル画像をタップすると、保存された画像が表示されます。
5. [戻る]または[ホーム]ボタンをタップして、カメラ機能を終了します。



注意

カメラ画面を左から右にスワイプした後、カメラアイコンまたはビデオアイコンをタップすることで、カメラモードとビデオモードを切り替えることができます。

3.1.3 システムステータスアイコン

MaxiSys タブレットは、標準的な Android オペレーティングシステムのステータスアイコンを備えた、完全に機能する Android タブレットです。その他の情報については、Android のドキュメントを参照してください。

3.2 パワーダウン

タブレットをシャットダウンする前に、すべての車両通信を終了する必要があります。タブレットが車両と通信中にシャットダウンしようすると、警告メッセージが表示されます。タブレットが車両と通信中にシャットダウンを強制すると、一部の車両で ECU エラーが発生する場合があります。タブレットをシャットダウンする前に、診断アプリケーションを終了してください。

➤ MaxiSys タブレットをパワーダウンするには

1. 電源/ロックボタンを長押しする。
2. [電源オフ]をタップします。
3. [OK] をタップします。

3.2.1 システムの再起動

システムがクラッシュした場合、**Power/Lock** ボタンを長押しし、**Restart** をタップしてシステムを再起動します。

4 診断

VCI(MaxiFlashエリート)デバイスを介してサービス対象車両の電子制御システムとのデータリンクを確立することにより、診断アプリケーションは、診断情報を取得し、ライブデータパラメータを表示し、アクティブテストを実行することができます。Diagnostics アプリケーションは、エンジン、トランスミッション、アンチロックブレーキシステム(ABS)、エアバッグシステム(SRS)など、さまざまな車両制御システムの電子制御モジュール(ECM)にアクセスできます。

4.1 車両通信の確立 および選択

4.1.1 車両通信の確立

MaxiSys タブレットをメインケーブルで VCI デバイスを介してテスト車両に接続します。(必要に応じて OBDI アダプターを使用してください)タブレットに適切な車両通信を確立するには、以下の手順を実行する必要があります：

1. VCI デバイスを車両の DLC に接続し、通信と電源の両方を行う。
2. VCI デバイスを Bluetooth ペアリングまたは USB 接続でタブレットに接続する。
3. 上記の手順が完了したら、画面下のバーにある VCI ナビゲーションボタンを確認します。右下に緑色の BT または USB アイコンが表示されていれば、MaxiSys タブレットは車両診断を開始する準備ができています。

4.1.1.1 車両接続

VCI デバイスを車両の DLC に接続する方法は、車両の構成によって以下のように異なります：

- オンボード・ダイアグノスティックス・ツール(OBDII)管理システムを搭載した車両は、標準化された J-1962 DLC を介して通信と 12V 電源の両方を供給する。
- OBDII 管理システムを装備していない車両は、DLC 接続を介して通信を供給し、場合によってはシガーライターレセプタクルまたは車両バッテリーへの接続を介して 12V 電源を供給する。

OBDII 車両接続

このタイプの接続には、アダプターを追加することなくメインケーブルのみが必要です。

➤ **OBDII 車に接続するには**

1. メインケーブルのメスアダプターを VCI デバイスのビークルデータコネクタに接続し、固定ネジを締めます。
2. ケーブルの 16 ピン オス アダプターを車両の DLC に接続します。DLC は通常、車両のダッシュボードの下にあります。

ⓘ **注意**

車両の DLC は必ずしもダッシュボードの下にあるとは限りません。その他の接続情報については、テスト車両のユーザーマニュアルを参照してください。

非 OBDII 車両接続

このタイプの接続は、メインケーブルとサービス対象の特定の車両に必要な OBDI アダプターの両方が必要です。

非 OBDII 車両接続には 3 つの条件があります：

- DLC 接続は、通信と電源の両方を供給します。
- DLC 接続は通信を供給し、電源は補助電源コンセントアダプター接続で供給する。
- DLC 接続は通信を供給し、電源は車両バッテリーに接続して供給する。

➤ **OBDII 以外の車両に接続する場合**

1. メインケーブルのメスアダプターを VCI デバイスのビークルデータコネクタに接続し、固定ネジを締めます。
2. 必要な OBDI アダプターを探し、その 8 ピンジャックをメインケーブルのオスアダプターに接続する。
3. 付属の OBDI アダプターを車両の DLC に接続する。

ⓘ **注意**

車種によってはアダプターが複数あったり、アダプターの代わりにテストリードが付いている場合があります。必要に応じて車両の DLC に正しく接続してください。

➤ **補助電源コンセントアダプターを接続するには**

1. 補助電源コンセントアダプターの DC 電源コネクタを機器の DC 電源入力ポートに差し込みます。
2. 補助電源コンセントアダプターのオスコネクタを車両の補助電源コンセントアダプターのレセプタクルに接続します。

➤ **クリップパーケーブルを接続するには**

1. バリカンケーブルの筒状プラグを補助電源コンセントアダプターのオスコネクタに接続します。

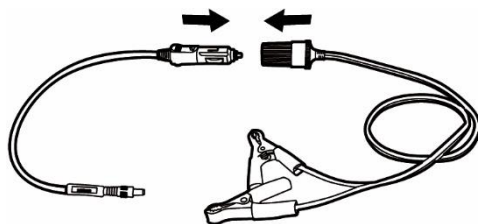


図 -41 補助電源コンセントアダプターとクランプケーブルの接続

2. 補助電源コンセントアダプターの DC 電源コネクタを VCI 装置の DC 電源入力ポートに差し込みます。
3. バリカンケーブルを車両のバッテリーに接続します。

ⓘ 注意

VCI デバイスが車両に正常に接続されると、デバイスの Power LED が点灯し、ビーブ音が鳴ります。

4.1.1.2 VCI 接続

VCI デバイスが車両に正しく接続されると、VCI デバイスの Power LED が緑色に点灯し、タブレットとの通信を確立する準備が整います。

MaxiSys ツールキットに付属の VCI デバイスは、タブレットとの 2 つの通信方法、Bluetooth と USB ケーブルをサポートしています。

Bluetooth によるペアリング

オープンエリアでは、Bluetooth 通信の動作範囲は約 328 フィート(100 メートル)であり、技術者は修理工場のどこからでも車両診断を実行できる機動性を高めることができます。

複数の車両診断を促進するために、複数の VCI デバイスは、技術者が迅速に別々に Bluetooth 経由で各 VCI デバイスに彼らの MaxiSys タブレットをペアリングすることを可能にし、したがって、1 つの車両から VCI デバイスのプラグを抜いて、新しい車両が修理のために入ってくるたびに別のものに接続する必要性を排除し、忙しい修理工場で使用することができます。

➤ タブレットと VCI デバイスを Bluetooth でペアリングするには

1. タブレットの電源を入れます。
2. MaxiSys Job Menu から **VCI Manager** アプリケーションを選択します。

3. **VCI Manager** アプリケーションが開いたら、接続モードリストから **VCI BT** を選択し、Bluetooth トグルボタンを **ON** にスワイプします。デバイスは Bluetooth ペアリングのために利用可能な VCI デバイスを自動的にスキャンします。見つかったデバイスは、画面右側の「設定」セクションにリストされます。

⑦ **注意**

VCI デバイスが見つからない場合は、信号強度が弱すぎて検出できない可能性があります。VCI デバイスの位置を変更し、信号干渉の原因となる可能性のあるものをすべて取り除きます。右上の[スキャン]ボタンをタップして、VCI を再スキャンします。

4. 通常、VCI デバイス名はシリアル番号の後に「Maxi」と表示されます。ペアリングする VCI デバイスを選択します。(ショップで複数の VCI が使用されている場合は、正しい VCI を選択してペアリングしてください)。
5. ペアリングが成功すると、接続ステータスが “Connected” と表示される。
6. タブレットと VCI が接続されると、画面下部のタブレットナビゲーションバーの VCI アイコンに緑色の丸い BT アイコンが表示されます。

詳細については、[VCI の Bluetooth ペアリング](#) を参照してください。

USB ケーブル接続

USB ケーブル接続は、タブレットと VCI デバイス間の通信を確立する簡単で迅速な方法です。タブレットから VCI デバイスに USB ケーブルを正しく接続すると、画面下部の VCI ナビゲーションボタンに緑色の USB ケーブルバッジが表示され、VCI デバイスの Connection LED が緑色に点灯し、デバイス間の接続が成功したことを示します。

MaxiSys 診断プラットフォームは、車両診断を実行する準備が整いました。

⑦ **注意**

USB 接続は最も安定した通信を提供するため、ECU プログラミングやコーディングを操作する際にタブレットと VCI 間で推奨される通信モードです。USB 通信方式は、他の接続された通信モードよりも優先されます。

4.1.1.3 通信不能メッセージ

- A. タブレットが VCI に接続できない場合、「エラー」メッセージが表示されます。エラーメッセージは、タブレットが VCI デバイスと通信していないことを示します：
 - VCI デバイスの電源が入っていることを確認します。
 - ワイヤレス接続を使用する場合は、ネットワークが正しく設定され、適切なデバイスが接続されていることを確認します。

- 診断中にタブレットの通信が突然切断された場合は、信号干渉を引き起こしている物体がないことを確認します。
 - VCI デバイスが VCI の前面を上にして正しく配置されていることを確認します。
 - タブレットを VCI デバイスに近づけます。有線接続を使用する場合は、ケーブルが VCI にしっかりと取り付けられていることを確認する。
 - 選択した通信タイプ、Bluetooth または USB ケーブルの通信 LED が点灯していることを確認する。
- B. VCI デバイスが通信リンクを確立できない場合、メッセージが表示されます。通信エラーの原因としては、以下のようなものが考えられます：
- VCI デバイスが車両との通信リンクを確立できない。
 - 車両がサポートしていない車両システムが診断用に選択されている。
 - 接続が緩んでいる。
 - 車両のヒューズが切れている。
 - 車両またはデータケースに配線不良がある。
 - データケーブルまたはアダプターに回路異常がある。
 - 車両識別番号の入力に誤りがあります。

4.2 はじめに

Diagnostics アプリケーションを初めて使用する前に、VCI デバイスがタブレットに正しく接続され、通信していることを確認してください。[車両通信の確立](#) を参照してください。

4.2.1 車両メニューのレイアウト

VCI デバイスが車両に正しく接続され、タブレットとペアリングされると、プラットフォームは 車両診断を開始する準備が整います。MaxiSys ジョブメニューの **Diagnostics** アプリケーションボタンをタップすると、車両メニューがスクリーンに表示されます。



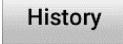
図 -42 車両メニュー画面

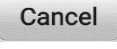
1. トップツールバーボタン
2. ナビゲーションバー
3. メーカーボタン

4.2.1.1 トップツールバーボタン

画面上部のツールバーボタンの操作は、下表のとおりです。

表 -41 トップツールバーボタン

ボタン	ボタン名	説明
	ホーム	MaxiSys Job Menu に戻ります。
	VID	自動 VIN 検出の場合は Auto Detect を、VIN コードまたはライセンス番号を手動で入力する場合は Manual Input をタップします。スキャン VIN/ライセンスをタップすると、カメラで VIN コード/ライセンス番号をスキャンします。
	履歴	保存されているテスト車両の履歴記録を表示します。このオプションにより、過去にテストした車両の記録に直接アクセスできます。 車両履歴 を参照してください。
	車両	商用車タイプの選択に基づいて車両メニューを表示します。

ボタン	ボタン名	説明
	システム	車両システムの選択に基づいて車両メニューを表示します。
	検索	検索フィールド内をタップするとバーチャルキーボードが表示され、テストする車両メーカーを入力することができます。
	キャンセル	検索画面を終了したり、操作をキャンセルする場合にタップします。

4.2.1.2 ナビゲーションバー

ナビゲーションバーは、ユーザーが目的の車両に素早くアクセスするためのものです。上部ツールバーの**車両タブ**をタップすると、ナビゲーションバーに表示されている商用車タイプの選択に基づいて車両メニューが表示されます。上部ツールバーの**システムタブ**をタップすると、ナビゲーションバーに表示されている車両システムの選択に基づいて車両メニューが表示されます。

4.2.1.3 メーカーボタン

メーカーボタンは、様々な車両ブランド名を表示します。診断会議を始めるために VCI 装置がテスト車に適切に接続された後製造業者ボタンを選んで下さい。

4.3 車の同一証明

MaxiSys の診断システムは車の同一証明の 5 つの方法を支えます。

1. 自動 VIN スキャン
2. 手動入力
3. スキャン VIN/License
4. 手動車の選択
5. OBDII 直接入力

4.3.1 自動 VIN スキャン

MaxiSys の診断システムは技術者がすぐに正確な車を識別し、欠陥コードのための利用できるシステムをスキャンすることを可能にするちょうど 1 つの蛇口が付いている

CAN 車を識別する最も最近の VIN ベースの自動 VIN スキャン機能を特色にします。

➤ 自動 VIN スキャンを実行するには

1. MaxiSys ジョブメニューから**診断**アプリケーションボタンをタップします。車両メニューが表示されます。
2. 上部ツールバーの **VID** ボタンをタップします。

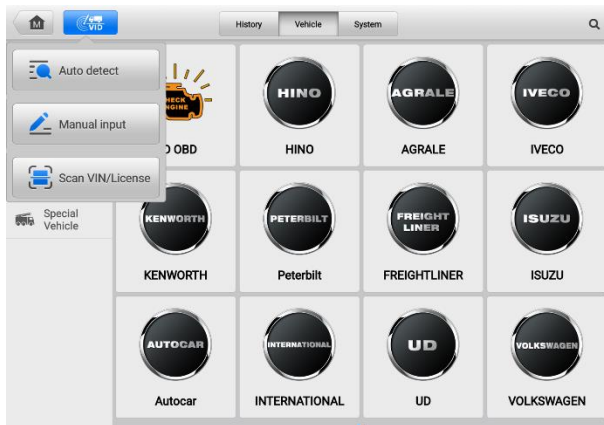


図 -43 VID 画面

3. **自動検出**を選択します。タブレットが車両の ECU で VIN スキャンを開始します。テスト車両が正常に識別されると、システムは車両診断画面に誘導します。

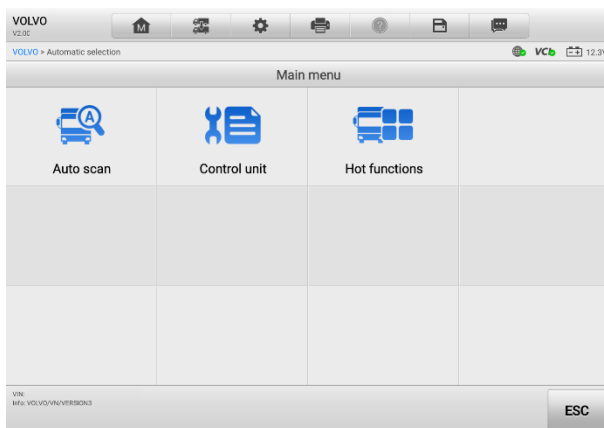


図 -44 診断メインメニュー画面

4.3.2 手動入力

オート VIN スキャン機能をサポートしていない車両については、MaxiSys 診断システムは、手動で車両の VIN またはライセンス番号を入力するか、単に迅速な車両識別のための VIN ステッカーまたはナンバープレートの写真を撮ることができます。

➤ 手動入力を実行するには

1. MaxiSys ジョブメニューから診断アプリケーションボタンをタップします。車両メニューが表示されます。
2. 上部ツールバーの **VID** ボタンをタップします。
3. マニュアル入力を選択します。
4. 入力ボックスをタップし、正しい VIN コードまたはライセンス番号を入力します。

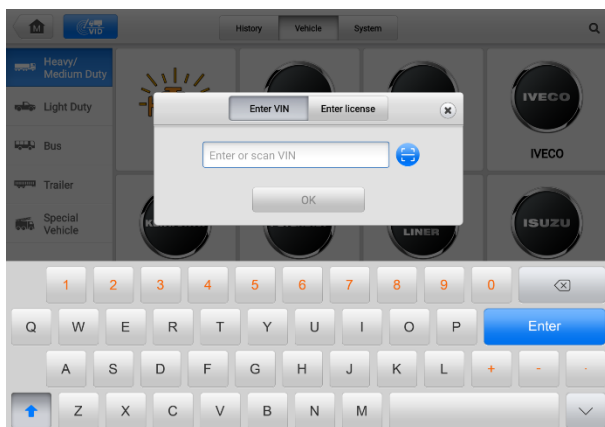


図 -45 手動 VIN 入力

5. **OK** をタップします。車両が特定され、車両データベースと照合され、システムが車両診断画面にご案内します。

4.3.3 VIN/ライセンスのスキャン

ドロップダウンリストの「Scan VIN/License」をタップします(図 -43 **VID** 画面)。カメラが開きます。画面の右側で、上から順に3つのオプションが利用できます: [QR/バーコードのスキャン]、[車体番号のスキャン]、[免許証のスキャン]。

⚠ 注意

ライセンスをスキャンする方法は、一部の国や地域でサポートされています。ライセンス番号が利用できない場合は、手動で入力してください。

3つのオプションから1つを選択し、タブレットの位置をVINまたはライセンス番号のスクリーンウィンドウ内に合わせます。**OK** をタップして結果を確認すると、車両情報の確認画面がタブレットに表示されます。車両情報がすべて正しい場合は、画面中央のアイコンをタップして検査車両の車体番号を確認します。**OK** をタップして続行します。

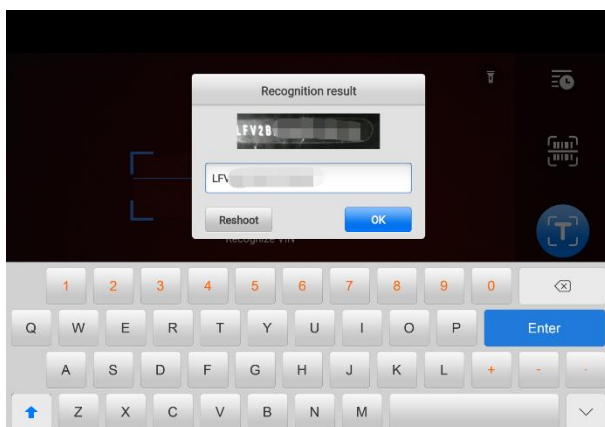


図 -46 スキャン VIN コード 1

VIN/ライセンス番号がスキャンできない場合は、VIN/ライセンス番号を手入力してください。**OK** をタップして続けます。

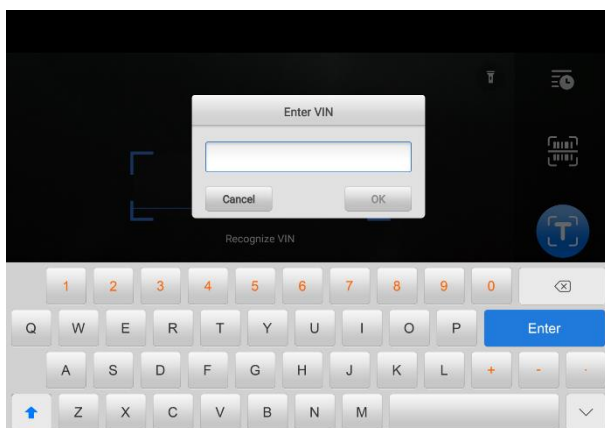


図 -47 スキャン VIN コード 2

4.3.4 車両の手動選択

車両の VIN が車両の ECU から自動的に取得できない場合、または特定の VIN が不明な場合は、手動で車両を選択することができます。

ステップバイステップの車両選択

この車両選択モードは メニュー駆動型 です。車両メニュー画面で車両メーカーを選択し、診断タイプ選択画面を表示させ、**手動選択** ボタンをタップします。同じ画面でブランド、モデル、定員、エンジンタイプ、年式などの車両情報を選択します。画面右下の ESC ボタンで前の画面に戻ります。必要に応じて **リセット** ボタンをタップし、車両情報を再選択してください。

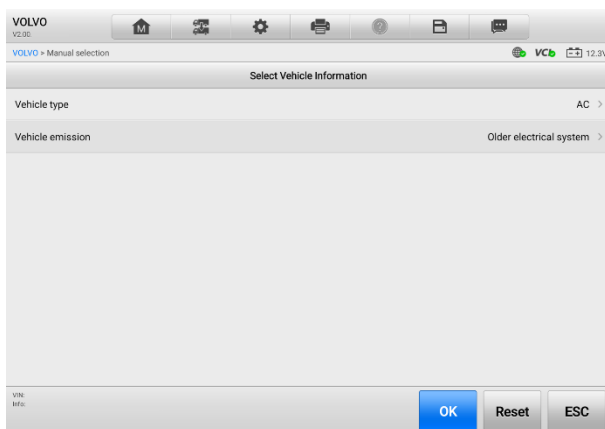


図 -48 手動車両選択画面

4.3.5 OBDII ダイレクト入力

タブレットが車両を識別できない場合があります。このような車両の場合、ユーザーは一般的な OBDII または EOBD 診断を行うことができます。詳細については、[一般的な OBDII 操作](#) を参照してください。

4.4 ナビゲーション

4.4.1 診断画面レイアウト

車両情報を選択したら、画面右下の **OK** ボタンをタップしてメインメニュー画面を開きま

す。このセクションは、オートスキャンやコントロールユニットなど、一般的に使用される様々な機能で構成されています。表示される機能は車両によって異なります。

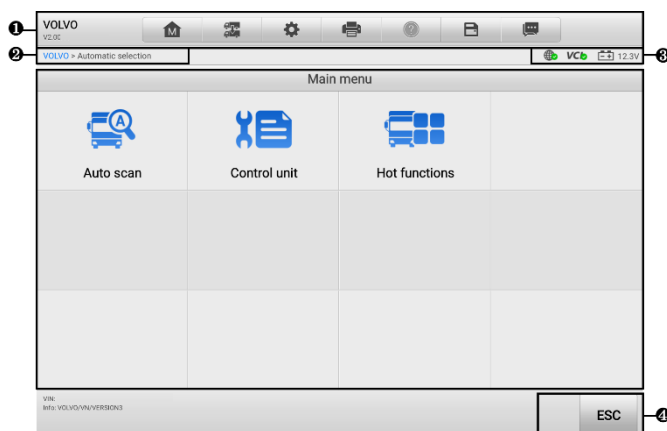


図 -49 メインメニュー画面

1. 診断ツールバー
2. 現在のディレクトリパス
3. ステータス情報バー
4. メインセクション
5. 機能ボタン

4.4.1.1 診断ツールバー

診断ツールバーには、表示されたデータを印刷または保存したり、その他の操作を実行するためのボタンがあります。以下の表は、診断ツールバーボタンの操作に関する簡単な説明です。

表 -42 診断ツールバーボタン

ボタン	ボタン名	説明
	ホーム	タップして MaxiSys ジョブメニューに戻ります。
	車両スワップ	診断セッションを終了し、テスト用の別の車両を選択するために車両メニュー画面に戻ります。
	設定	設定画面を開きます。 設定 を参照してください。

ボタン	ボタン名	説明
	印刷	表示されたデータのコピーを保存および印刷します。 印刷 設定 を参照してください。
	ヘルプ	各種診断機能の操作に関する説明やヒントを提供します。
	保存	データ保存のオプションを提供するサブメニューを開きます。
	データロギング	車両のテストや診断中にエラーが発生した場合にこの機能を使用します。この機能により、テスト車両の通信データと ECU 情報が記録され、オーテルの技術スタッフに送信されます。 処理の進捗状況を確認するには、サポートアプリケーションにアクセスしてください。 データロギング を参照してください。

➤ **Diagnostics** でデータを印刷するには

1. MaxiSys Job Menu から **Diagnostics** アプリケーションボタンをタップします。Diagnostics ツールバーの Print ボタンは、Diagnostics の全操作で使用できます。
2. **Print** をタップするとドロップダウンメニューが表示されます。
 - a) **Print this page** - 現在の画面のスクリーンショットを印刷します。
 - b) **すべてのデータを印刷** - 表示されているすべてのデータの PDF コピーを印刷します。
3. 一時ファイルが作成され、コンピュータ経由でプリンタに送信されます。
4. ファイルが送信されると、確認メッセージが表示されます。

🔗 **注意**

印刷する前に、タブレットとプリンターが Wi-Fi または LAN で接続されていることを確認してください。印刷の詳細については、[印刷](#) 設定 を参照してください。

➤ **Diagnostics** でデータロギングレポートを送信するには

1. MaxiSys Job Menu から **Diagnostics** アプリケーションボタンをタップします。Diagnostics ツールバーの [Data Logging] ボタンは、Diagnostics の全操作で使用できます。
2. データロギングボタンをタップすると、エラーオプションが表示されます。特定のエラーを選択すると、レポート情報を入力するための送信フォームが表示されます。

3. 画面右上の送信ボタンをタップして、インターネット経由でレポートフォームを送信します。送信に成功すると、確認メッセージが表示されます。

4.4.1.2 現在のディレクトリパス

現在のディレクトリパスには、現在のページにアクセスするためのすべてのディレクトリ名が表示されます。

4.4.1.3 ステータス情報バー

メインセクションの右上にあるステータス情報バーには、以下の項目が表示されます：

1. ネットワークステータスアイコン - ネットワークが接続されているかどうかを示します。
2. VCI アイコン - タブレットと VCI デバイス間の通信状態を示します。
3. バッテリーアイコン - 車両のバッテリー状態を示します。

4.4.1.4 メインセクション

メインセクションは、車両の識別選択、メインメニュー、テストデータ、メッセージ、指示、その他の診断情報を表示する操作の段階によって異なります。

4.4.1.5 ファンクションボタン

画面下部に表示されるファンクションボタンは、操作によって異なります。機能には、ナビゲーション、レポート、コードクリアなどがあります。これらのボタンの機能については、次のセクションで説明します。

④ 注

診断ツールバー(画面上部にある)は、表示されたデータの印刷や保存、ヘルプ情報の取得、データロギングの実行など、タスクのために、診断セッション中 アクティブになります。

4.4.2 画面メッセージ

先に進む前に追加入力が必要な場合、メッセージが表示されます。画面メッセージには主に 3 つのタイプがあります：確認、「警告」、「エラー」です。

4.4.2.1 確認メッセージ

このタイプのメッセージは通常、取り消すことのできないアクションを実行しようとしているとき、またはアクションが開始され、続行するために確認が必要なときに、「情報」画面として表示されます。

ユーザーによる応答が必要ない場合、メッセージは短く表示されます。

4.4.2.2 警告メッセージ

このタイプのメッセージは、選択したアクションを完了すると、不可逆的な変更またはデータの損失につながる可能性がある場合に表示されます。このメッセージの例は、“Erase Codes”メッセージです。

4.4.2.3 エラーメッセージ

エラーメッセージは、システムまたは手続き上のエラーが発生した場合に表示されます。考えられるエラーには、ケーブルの断線や通信の中断などがあります。

4.5 診断メニュー

Diagnostics アプリケーションを使用すると、VCI デバイスを介して車両の ECU とデータ接続を確立し、車両の診断とメンテナンスを行うことができます。

メインメニュー画面  -49 メインメニュー画面 を参照)では、コードの読み取り、コードのクリア、包括的な自動車診断機能などの実行をナビゲートします。機能を選択した後、タブレットは VCI デバイスを通じて車両と通信を確立し、選択した機能に基づいて対応する機能メニューまたは選択メニューに入ります。

4.6 診断機能

オートスキャン

オートスキャン機能は、テスト車両の ECU を包括的にスキャンし、故障システムを特定し、DTC を取得します。オートスキャンのサンプル操作インターフェースは以下のように表示されます。

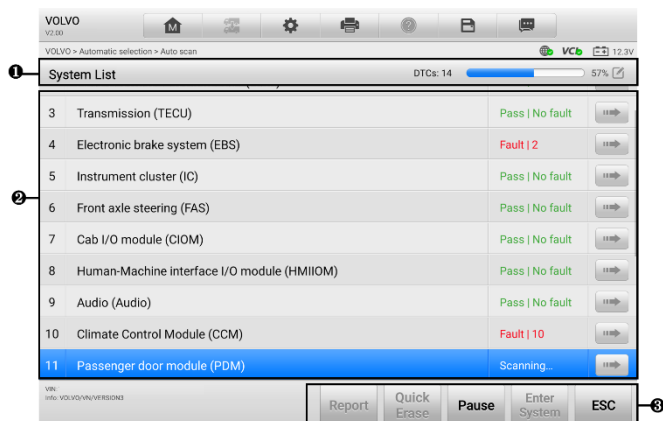


図 -410 オートスキャン操作画面

1. ナビゲーションバー
 - リスタブ - スキャンしたデータをリスト形式で表示します。
 - プログレスバー - テストの進行状況を表示します。
2. メインセクション
 - 列 1 - システム番号が表示されます。
 - コラム 2 - スキャンされたシステムを表示
 - 列 3 - スキャン結果が表示されます。
 - ◇ **フォルト | #**: 検出されたフォルトコードが存在することを示す。
 - ◇ **合格 | フォルトなし**: システムがスキャンされ、フォルトが検出されなかったことを示す。
 - ◇ **スキャンされていない**: システムがスキャンされていないことを示す。
 - ◇ **応答なし**: システムが応答を受信していないことを示す。
 - 列 4 -  ボタンをタップして、さらに診断を実行するシステムに入ります。
3. 機能ボタン

下の表は、機能ボタンの簡単な説明です。

表 -43 オートスキャン画面の機能ボタン

名称	説明
レポート	診断データをレポート形式で表示します。
クイック消去	スキャン後にすべてのフォルト情報を消去します。
欠陥スキャン	車のシステム モジュールをスキャンします。
一時停止	スキャンプロセスを一時停止します。
システム入力	ECU システムに入ります。
ESC	前の画面に戻るか、診断画面を終了します。

制御ユニット

コントロールユニット機能では、一連の選択肢からテストに必要なコントロールシステムを手動で探すことができます。単にメニュー駆動手順に従い、毎回適切な選択を行います。プログラムは、あなたが行ったいくつかの選択の後に診断機能メニューにあなたを導きます。

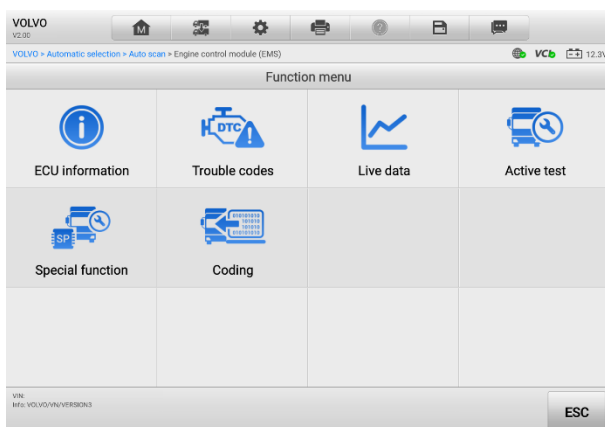


図 -411 診断機能画面

利用可能な機能は車両によって異なります。機能メニューには以下が含まれます：

- **ECU 情報** - ECU の詳細情報を表示します。選択すると情報画面が表示されます。
- **Trouble Codes(トラブルコード)** - Read Codes(読み取りコード)と Erase Codes(消去コード)があります。前者は、車両制御モジュールから取得した詳細な DTC 情報を表示します。後者では、ECU から DTC やその他のデータを消去できます。

- **ライブデータ** - 車両の ECU からライブデータとパラメータを取得し、表示します。
- **アクティブテスト** - 特定のサブシステムおよびコンポーネントのテストを提供します。
アクチュエーター、アクチュエーターテスト、ファンクションテストと表示されます。利用可能なテストは車両によって異なります。
- **特殊機能** - カスタム設定用のコンポーネント適合またはバリエーションコーディング機能を提供し、修理後に特定のコンポーネントの適合値を入力できます。テスト車両によっては、この選択項目が Control Unit Adaptations(コントロールユニット適応)、Variant Coding(バリエーションコーディング)、Configuration(コンフィギュレーション)などとして表示されることがあります。

➤ **診断機能を実行するには**

1. MaxiSys タブレットを VCI デバイスに接続します。
2. MaxiSys タブレットがサポートする車両識別方法のいずれかによって車両を識別します。
3. オートスキャンまたはコントロールユニットをタップし、必要なテストシステムを探します。
4. 診断機能画面から実行する機能を選択します。

4.6.1 ECU 情報

この機能では、ユニットタイプ、バージョン番号、その他の情報など、テストしたコントロールユニット固有の情報を検索して表示します。

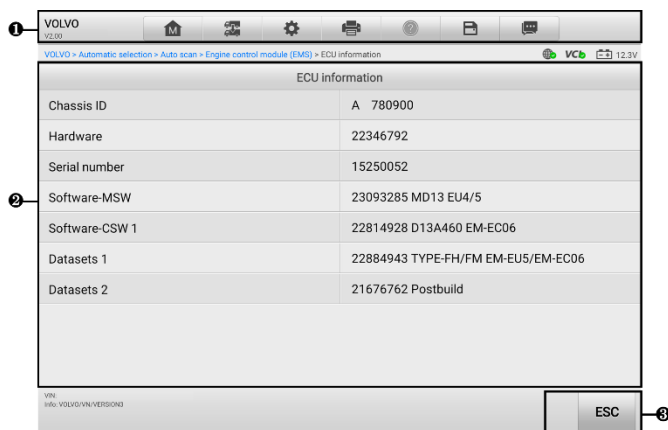


図 -412 ECU 情報画面

1. 診断ツールバーボタン -表 -42 診断ツールバーボタン を参照してください。
2. メインセクション - 左側の列には項目名が表示され、右側の列には仕様または説明

が表示されます。

- 機能ボタン - この場合、ESC ボタンのみが利用可能です。表示後に終了するには、このボタンをタップします。

4.6.2トラブルコード

DTC Guide、Freeze Frame、Search、Read Codes、Erase Codes の各機能ボタンは、Trouble Codes 画面にあります。フリーズ・フレーム・データがある場合に有効になります。消去コード] ボタンをタップすると、ECU から DTC およびその他のデータが消去され、[読み取りコード] ボタンをタップすると、車両制御モジュールから取得した詳細な DTC 情報が表示されます。Diagnostics Function 画面から **Trouble Codes** をタップすると、タブレットは自動的に ECU の DTC 情報を読み取ります。

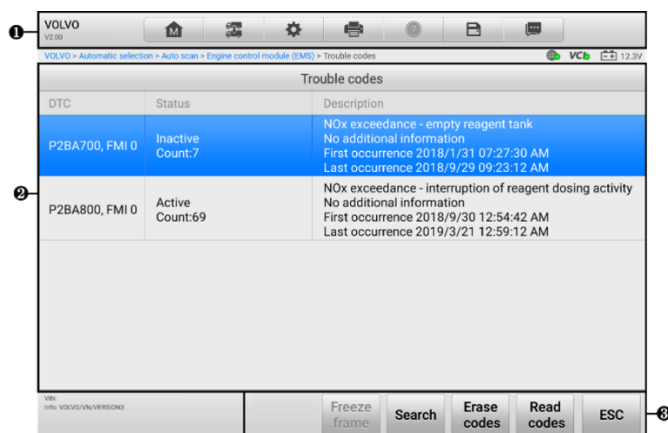


図 -413 トラブルコード画面

- 診断ツールバー - 各ボタンの操作の詳細については、表 -42 診断ツールバーボタンを参照してください。
- メインセクション
 - 列 1 - 車両から取得したコードを表示します。
 - 列 2 - 検索されたコードのステータスを示します。
 - 列 3 - 検索されたコードの詳細説明が表示されます。
- 機能ボタン
 - フリーズフレーム - フリーズフレームデータが表示可能な場合、雪の結晶のアイコンが表示されます。ボタンをタップすると、データ画面が表示されます。フリー

ズフレーム画面は、読み取りコード画面と類似しており、同様の操作が可能です。

- **検索** - タップすると、選択した DTC をインターネットで検索して追加情報を表示します。
- **コードの消去** - タップして ECU からコードを消去します。コードを消去する前に DTC を読み取り、必要な修理を行うことを推奨します。

車両から取得したコードを読み取り、特定の修理を行った後、この機能を使用して車両からコードを消去できます。この機能を実行する前に、車両のイグニッションキーが ON(RUN)ポジションにあり、エンジンが停止していることを確認してください。

➤ **コードを消去するには**

1. ファンクションボタンの「**コード消去**」をタップします。
 2. この機能を実行すると、データが失われることを知らせる警告メッセージが表示されます。
 - ◇ 続行するには「**はい**」をタップします。操作が成功すると確認画面が表示されます。
 - ◇ **いいえ**」をタップして終了します。
 3. 確認画面で **ESC** をタップして、Erase Codes 画面を終了します。
 4. 操作が成功したことを確認するために、Read Codes 機能を再度確認してください。
- **コードを読む** - 車両制御システムから DTC を検索して表示します。Read Codes 画面はテストする車両によって異なります。
 - **ESC** - タップして前の画面に戻るか、機能を終了します。

4.6.3 ライブ・データ

この機能を選択すると、選択したモジュールのデータリストが表示されます。パラメータは ECU から送信された順に表示されるため、車両によって異なることが予想されます。

ジェスチャースクロールにより、データリスト内を素早く移動することができます。スクリーンをタッチして指を上下にドラッグすると、表示されているパラメーターの位置を変更できます。下図は典型的なライブ・データ画面です：

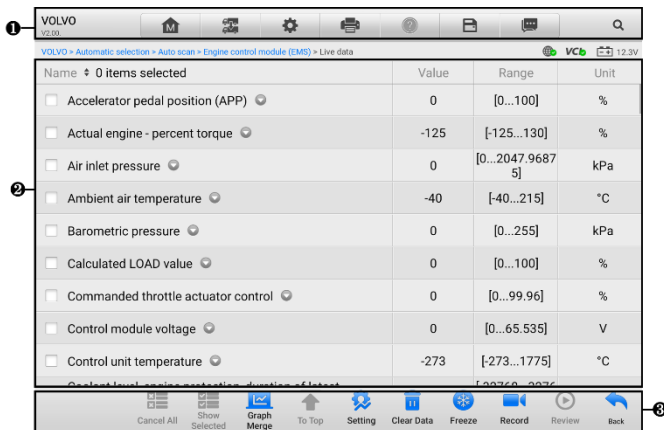


図 -414 ライブ・データ画面

1. Diagnostics Toolbar Buttons - 各ボタンの操作の詳細については、表 -42 診断ツールバーボタン を参照してください。
2. メインセクション
 - 名前列 - パラメータ名が表示されます。
 - ✧ チェックボックス - パラメータの左側にあるチェックボックスをタップして項目を選択します。もう一度チェックボックスをタップすると選択が解除されます。
 - ✧ ドロップダウンボタン - パラメータの右側にあるドロップダウンボタンをタップすると、データを表示するためのオプションモードを提供するサブメニューが開きます。
 - 値の列 - パラメータの値が表示されます。
 - 範囲列 - パラメータの範囲を表示します。
 - Unit Column - パラメータ値の単位を表示します。単位モードを変更する必要がある場合は、診断ツールバー上部の設定ボタンをタップし、必要なモードを選択します。単位 を参照してください。
3. ファンクションボタン - ライブデータ画面には多くのファンクションボタンがあります。
 - a) 表示モード

データ表示には 4 種類の表示モードがあり、様々な種類のパラメータをデータの表現に最適なモードで表示することができます。

パラメータの右側にあるドロップダウンボタンをタップすると、サブメニューが表示されます。合計 7 つのボタンが表示されます: 左側の 4 つのボタンは異なるデータ表示モードを表し、1 つの情報ボタンは追加情報が利用可能な場合にアクティブになります。1 つの単位変更ボタンは表示データの単位を切り替えます。1 つのトリガーボタンはタップすると

リガー設定ウィンドウが開きます。

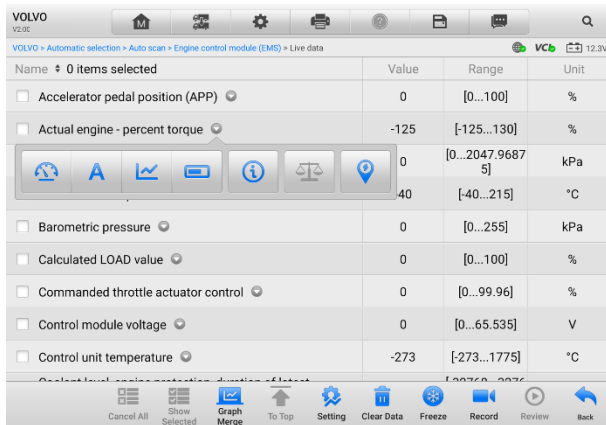


図 -415 表示モード画面

各パラメータ項目は、選択されたモードを個別に表示します。

- ◇ アナログゲージモード - パラメータをゲージチャートで表示します。
- ◇ テキストモード - パラメータをテキストリストとして表示するデフォルトモード。

⑧ 注
ON、OFF、ACTIVE、ABORT などのスイッチ読み取り値のようなステータスパラメータは、テキストモードでのみ表示できます。センサーの読み取り値などの値パラメータは、テキストモードとグラフモードの両方で表示できます。

- ◇ 波形グラフモード - パラメータを波形グラフで表示します。

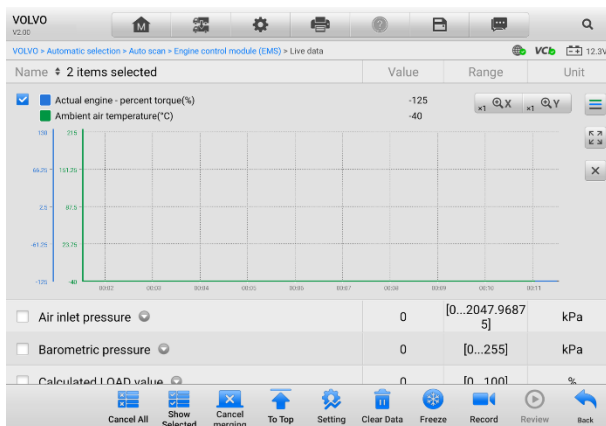


図 -416 波形グラフ・モード画面

このモードでは、パラメータの右側に 5 つのコントロールボタンが表示され、表示状態を操作できます。

- 1) **設定ボタン(SetY)** - Y 軸の最小値と最大値を設定します。
- 2) **スケールボタン** - スケール値を変更します。

波形グラフの右側上部に表示される 2 つのスケール・ボタンで、グラフの X 軸と Y 軸のスケール値を変更できます。X 軸には、x1、x2、x4、x8 の 4 つのスケールがあります。Y 軸には x1、x2、x4 の 3 つのスケールがあります。

- 3) **編集ボタン** - 波形の色と線の太さを編集します。
- 4) **ズーム・イン・ボタン** - 1 回タップすると、選択したデータ・グラフをフル・スクリーンで表示します。
- 5) **終了ボタン** - タップして波形グラフ・モードを終了します。

全画面表示 - このオプションは波形グラフ・モードでのみ使用でき、主にデータ比較のためのグラフ・マージ・ステータスで使用されます。このモードでは、画面右上に 4 つのコントロール・ボタンがあります。

- **スケール・ボタン** - タップすると、波形グラフの下のスケール値が変更されます。X 軸には、x1、x2、x4、x8 の 4 つのスケールがあります。Y 軸には、x1、x2、x4 の 3 つのスケールがあります。
- **編集ボタン** - タップすると編集ウィンドウが開き、選択したパラメータ項目に表示される波形の色や線の太さを設定できます。
- **ズーム・アウト・ボタン** - タップすると、全画面表示を終了します。
- **終了ボタン** - タップすると、波形グラフ・モードを終了します。

➤ データ・グラフで波形の色と線の太さを編集するには

1. 波形グラフ・モードで表示するパラメータを選択します。
2. **Edit** ボタンをタップすると、編集ウィンドウが表示されます。

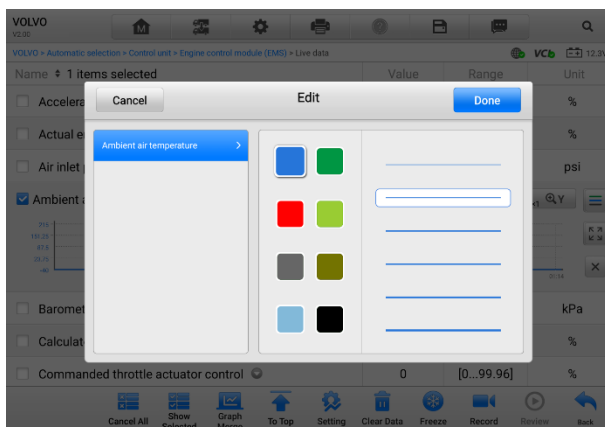


図 -417 波形編集画面

3. 左側の列でパラメータ項目が自動的に選択されます。
4. 2 列目から色を選択します。
5. 右欄から線の太さを選択します。
6. **Done** をタップして設定を保存して終了するか、**Cancel** をタップして保存せずに終了します。



注意

フルスクリーン表示では、画面右上の **Edit** ボタンをタップして波形の色と線の太さを編集してください。

◇ **デジタル・ゲージ・モード** - パラメータをデジタル・ゲージ・グラフの形で表示します。

b) トリガ設定

トリガー設定画面では、最小値と最大値を入力することで、標準範囲を設定することができます。この範囲を超えると、トリガー機能が実行され、生成されたデータが自動的に記録・保存されます。保存されたライブデータは、画面下部のレビューボタンをタップすることで確認できます。

パラメータの右側にあるドロップダウンボタンをタップすると、サブメニューが開きます。トリガーボタンはサブメニューの最後のボタンです。タップすると、"Trigger Settings" ウィンドウが表示されます。

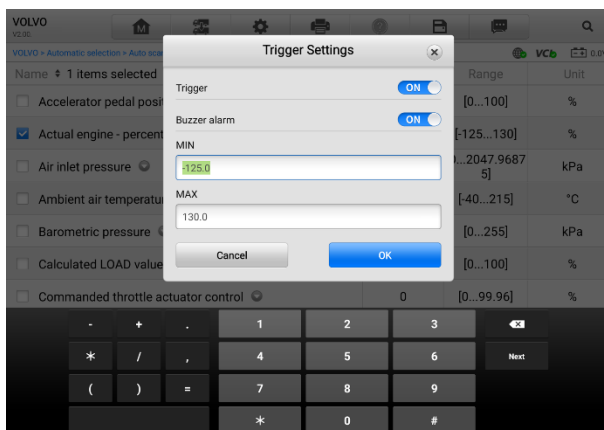


図 -418 トリガー設定画面

トリガー設定ウィンドウには、2 つのボタンと 2 つの入力ボックスがあります。

- a) **トリガー** - トリガーのオンとオフを切り替えます。デフォルトではトリガーはオンです。
- b) **ブザーアラーム** - アラームのオンとオフを切り替えます。アラーム機能は、データ読み取り値がプリセットされた最小または最大ポイントに達すると、警告としてビーブ音を鳴らします。ブザーアラームは最初のトリガーのみ鳴ります。
- c) **MIN** - この入力ボックスをタップすると、下限値を入力するための仮想キーボードが表示されます。
- d) **MAX** - この入力ボックスをタップすると、仮想キーボードが表示され、必要な上限値を入力できます。

➤ **トリガーを設定するには**

1. パラメータ名の右側にあるドロップダウンボタンをタップして、サブメニューを開きます。
2. サブメニューの右側にある **Trigger** ボタンをタップして、Trigger Settings ウィンドウを開きます。
3. MIN 値入力ボックスをタップすると、必要な最小値を入力するための仮想キーボードが表示されます。
4. MAX 値入力ボックスをタップして仮想キーボードを表示し、必要な最大値を入力します。
5. **OK** をタップして設定を保存し、ライブ・データ画面に戻るか、**[キャンセル]** をタップして保存せずに終了します。

⑦ 注意

トリガが正常に設定されると、パラメータ名の前にトリガマークが表示されます。このマークは、トリガーされていないときは灰色で、トリガーされるとオレンジ色で表示されます。さらに、各データグラフ(波形グラフモード適用時)にアラームポイントを示す 2 本の水平線が表示されます。リミットラインは、パラメータ波形と区別するために異なる色で表示されます。

c) 機能ボタン

ライブ・データ画面で使用可能なファンクション・ボタンの操作は以下の通りです:

- ✧ **キャンセル・オール(Cancel All)** - このボタンをタップすると、選択したすべてのパラメータ項目がキャンセルされます。一度に選択できるパラメータは最大 50 個です。
- ✧ **Show Selected/Show All** - このボタンをタップすると、2 つのオプションが切り替わります。一方は選択されたパラメータを表示し、もう一方は利用可能なすべての項目を表示します。
- ✧ **Graph Merge** - このボタンをタップすると、選択したデータ・グラフがマージされます(波形グラフ・モードのみ)。この機能は、異なるパラメータを比較する場合に非常に便利です。

⑦ 注意

このモードは、デジタルで表現できる 2~5 個のパラメーターのグラフマージに対応しています。デジタル以外のパラメータはサポートされていません。

➤ 選択したデータグラフをマージするには

1. マージするパラメータ項目を選択する。
 2. ライブデータ画面下部の**グラフ結合**ボタンをタップします。
 - a) このモードは、デジタル表示可能なパラメータにのみ対応しています。デジタル以外のパラメータを選択した場合、選択したパラメータがこのモードではサポートされていないことを知らせるメッセージが表示され、デジタルパラメータを 2~5 個選択するように指示されます。**Got It** ボタンをタップして前の画面に戻り、サポートされているパラメータを選択します。
 - b) 選択したパラメータがこのモードではサポートされていない場合、サポートされているパラメータのみを選択するよう促すメッセージが表示されます。また、5 つ以上のパラメータを選択した場合にもメッセージが表示されます。対応しているパラメータを 2~5 個選択し、**OK** ボタンをタップしてください。
 3. ライブデータ画面下部の**キャンセルマージ**ボタンをタップすると、マージをキャンセルできます。
- ✧ **To Top** - 選択したデータ項目をリストの一番上に移動します。

- ✧ **設定** - 録画時間を設定するには、このボタンをタップします。

- **ライブデータの記録時間を設定するには**
 1. ライブデータ画面の下部にある**設定**ボタンをタップします。
 2. **トリガーバー後の記録時間の右側にある>** ボタンをタップし、時間の長さを選択します。
 3. **OK** をタップして設定を保存し、ライブデータ設定画面に戻るか、右上の **"X"** ボタンをタップして保存せずに終了します。
 4. ライブデータ設定画面の右上にある**完了**をタップすると、設定を確定して保存し、ライブデータ画面に戻ります。

- ✧ **Clear Data** - このボタンをタップすると、キャッシュされたライブデータがすべてクリアされます。

- ✧ **フリーズ** - 取得したデータをフリーズモードで表示します。
 - 前フレーム - フリーズしたデータの前フレームに移動します。
 - Next Frame - フリーズしたデータの次のフレームに移動します。
 - 再生/一時停止 - フリーズしたデータをタップして再生/一時停止します。
 - Resume - タップしてフリーズ・データ・モードを終了し、通常 of データ表示に戻ります。

- ✧ **録画** - 選択したデータ項目のライブデータの録画を開始します。ライブデータ画面の下部にある**記録**ボタンをタップします。記録するパラメーターの選択を促すメッセージが表示されます。**Got It** ボタンをタップして確定します。下にスクロールし、記録するデータを選択します。**録画**ボタンをタップして録画を開始します。**レジューム**ボタンをタップして録画を停止します。記録されたライブデータは、ライブデータ画面の下部にある**レビュー**セクションで確認できます。記録されたデータは、Data Manager アプリケーションで確認することもできます。
 - 再開 - このボタンをタップすると、データ記録を停止し、通常 of データ表示に戻ります。
 - フラグ - このボタンは記録機能が適用されているときに表示されます。このボタンをタップすると、データ記録時に関心のあるポイントをメモするためのフラグを設定できます。ノートは、レビューまたはデータマネージャで再生中に追加できます。プリセットフラグを選択すると、ポップアップウィンドウが開き、メモを入力するための仮想キーボードが表示されます。

- ✧ **Review** - 録画したデータをレビューします。**Review** ボタンをタップして録画リストを表示し、レビューする項目を 1 つ選択します。



注意

ライブデータ画面で確認できるのは、現在の操作中に記録されたデータのみです。過去のすべての録画データは、Data Manager アプリケーションの Review Data から確認できます。

- Previous Frame(前のフレーム)-記録データの前のフレームに切り替わります。
- Next Frame(次のフレーム)-録画データの次のフレームに切り替わります。
- 再生/一時停止 - 録画されたデータをタップして再生/一時停止します。
- Show Selected - 選択されたパラメータを表示します。
- Graph Merge(グラフマージ) - 選択したデータグラフをマージします。
- Back - レビューを終了し、ライブデータ画面に戻ります。

◇ Back - 前の画面に戻るか、機能を終了します。

4.6.4 アクティブ・テスト

アクティブテスト機能は、車両固有のサブシステムおよびコンポーネントテストにアクセスするために使用されます。利用可能なテストは車両によって異なります。

アクティブテストでは、タブレットが ECU にコマンドを送信してアクチュエータを作動させます。このテストでは、ECU データを読み取ったり、アクチュエータの動作を監視したりすることで、システムまたは部品の完全性を判断します。このようなテストには、ソレノイド、リレー、スイッチを 2 つの動作状態の間で切り替えることが含まれます。

アクティブ・テストを選択すると、テスト・オプションのメニューが表示されます。利用可能なテストは車両によって異なります。

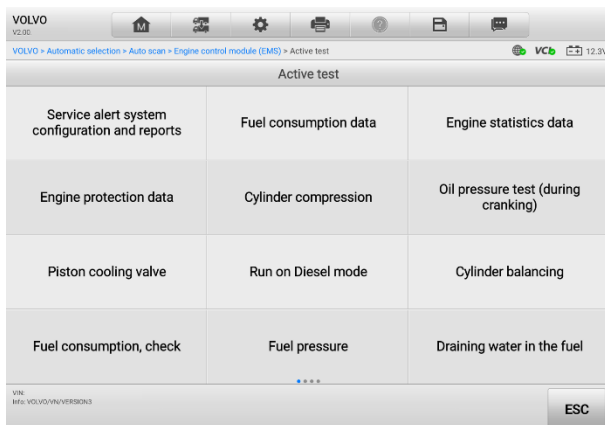


図 -419 アクティブ・テスト画面

メニュー・オプションからテストを選択します。画面に表示される指示に従ってテストを完

します。手順と指示は車両によって異なります。

アクティブ・テスト画面の右下にある機能ボタンは、テスト信号を操作します。操作手順は、テスト画面のメインセクションに表示されます。画面の指示に従って適切な選択を行い、テストを完了します。テストが終了したら、ESC ボタンをタップして終了します。

4.6.5 特殊機能

テスト車両によっては、この選択が学習プロセス、修正プログラミング、排ガス検査(米国では有効ではありません)、OBD I/M チェック(米国では有効ではありません)、または同様のものとして表示される場合があります。あなたの要求に従って進むために 1 つを選ぶことができます。

4.7 プログラミング とコーディング

OBDII の導入以来、現代のハイブリッド車や EV に至るまで、自動車のハードウェアおよびソフトウェア技術は指数関数的な速さで進歩しています。ソフトウェアのアップデートは、以下の問題を解決する唯一の方法かもしれません：

- ドライバビリティ
- 燃費効率
- パワーロス
- 故障コード
- 機械部品の耐久性

プログラミングとコーディングの機能は、車両のコンピュータソフトウェアを最新バージョンに更新したり、修理や交換を行った後に特定のコンポーネントの適応データを再プログラムすることができ、車両の制御モジュールを再フラッシュするために使用されます。

ⓘ 注意

プログラミング機能は、車両に VCI デバイスが接続されている場合にのみ適用されます。VCI デバイスは、車両の ECU との通信を確立し、データを転送するための PassThru インターフェイスとして機能します。

利用可能なプログラミングまたはコーディング操作は、テスト車両によって異なります。タブレット・メニューには、使用可能な操作のみが表示されます。

プログラミング操作には一般的に 2 つのタイプがあります：

- A. コーディング - ティーチン・プログラムまたはコンポーネント・アダプテーションとも呼ばれ、車両部品の修理や交換後に車両制御モジュールのアダプティブ・データを再プログラムするために使用されます。
- B. 再プログラミング - インターネットアクセスを通じてオンラインサーバーデータベース

からソフトウェアの最新バージョンをダウンロードし(この手順はタブレットがインターネットに接続されているときに自動的に行われるため、ソフトウェアの更新を自分で確認する必要はありません)、車両の ECU に最新バージョンを再プログラムします。

注意

ECU プログラミング機能を使用する前に、タブレットが安定したインターネットに接続されていることを確認してください。

プログラミングを選択すると、車種によって異なる操作オプションのメニューが開きます。メニュー・オプションを選択すると、プログラミング画面が表示されるか、追加の選択肢の別のメニューが開きます。画面の指示に従って操作してください。画面にどのような情報が表示されるかは、操作の種類によって異なります。

4.7.1 コーディング

コーディング画面のメインセクションには、車両コンポーネントのリストと、主に 2 つの部分からなるコーディング情報が表示されます：

1. 左側にはコーディングに使用可能なすべてのシステムが表示され、右側にはコーディングデータまたは値が表示されます。
2. 主要なセクションの底は操作を可能にする機能ボタンを表示します。

車両状態とコーディング情報をよく確認してください。機能ボタンを使用して、対応するコンポーネントのコードを編集します。すべての項目の編集が終了したら、[送信]をタップします。操作が完了すると、Completed、Finished、Successfulなどの実行状況メッセージが表示される場合があります。

ESC ボタンをタップして機能を終了します。

4.7.2 リプログラミング

再プログラミングを開始する前に

- タブレットが安定した Wi-Fi ネットワークに接続されていることが必須です。
- タブレットが USB で VCI に接続されていること。
- モジュール・プログラミング中は、タブレットのバッテリーが完全に充電されている必要があります。必要に応じてタブレットを充電器に接続してください。
- プログラミング中も安定した電圧が維持されるように、車両バッテリーにバッテリーメンテナーを取り付けてください。電圧要件は車両メーカーによって異なります。モジュールをプログラミングする前に、車両メーカーの推奨事項を参照してください。
- モジュールの再プログラミング中にアプリケーションを終了しないでください。

一般的な再プログラミング操作では、最初に VIN 番号を入力し、確認する必要があります。入力ボックスをタップし、正しい番号を入力します。プログラミング・インターフェースが表示されます。

再プログラミング・インターフェースのメイン・セクションには、ハードウェア、現在のソフトウェア・バージョン、およびコントロール・ユニットにプログラムされる最新のソフトウェア・バージョンの情報が表示されます。

一連の画面上の操作説明が表示され、プログラミング手順をガイドします。

画面上の情報を注意深く読み、指示に従ってプログラミング手順を実行してください。

4.7.3 再フラッシュエラー

❗ 禁止

オンボードで再プログラミングを行う場合は、必ず車両バッテリーが完全に充電され、良好な動作状態であることを確認してください。再プログラミング中、電圧が適切な操作電圧より下がると、操作が失敗することがあります。失敗した操作は回復できることもありますが、再プログラミングに失敗するとコントロール・モジュールがダメになることもあります。プログラミング中も安定した電圧を維持できるよう、外部バッテリーメンテナーを車両に接続することをお勧めします。必要な電圧は車両メーカーによって異なります。維持すべき正しい電圧については、車両メーカーにお問い合わせください。

フラッシュ更新手順が正しく完了しない場合があります。フラッシュ・エラーの一般的な原因には、タブレット、VCI、車両間のケーブル接続不良、フラッシュ手順が完了する前に車両のイグニッションがオフになった場合、または車両のバッテリー電圧が低い場合などがあります。

プロセスが終了した場合は、すべてのケーブル接続を再チェックして良好な通信を確保し、フラッシュ手順を初期化します。前の操作が成功しなかった場合、プログラミング手順は自動的に繰り返されます。

4.8 一般的な OBDII 操作

OBDII/EOBD 車両診断オプションは、DTC をチェックし、点灯した故障表示ランプ (MIL) の原因を切り分け、排出ガス認証試験の前にモニターの状態をチェックし、修理を確認し、その他の排出ガス関連サービスを実行するための迅速な方法を提供します。OBDII ダイレクトアクセスオプションは、Diagnostics データベースに含まれていない OBDII/EOBD 準拠車のテストにも使用されます。画面上部の診断ツールバーボタンは、特定の車両診断に使用できます。表 -42 診断ツールバーボタン を参照してください。

4.8.1 一般的な手順

➤ OBDII/EOBD 診断機能にアクセスするには

1. MaxiSys Job Menu から **Diagnostics** ボタンをタップします。車両メニューが表示されます。
2. **EOBD** ボタンをタップします。車両との通信を確立するための 3 つのオプションがあります。
 - Auto Scan General - 車両がどのプロトコルを使用しているかを判断するために、各プロトコルを使用して通信を確立するために選択します。
 - Auto Scan Enhance - プロトコルが不完全またはスキャンされていない場合、**Auto Scan Enhance** をタップしてサポートされているプロトコルを使用して通信を確立します。
 - プロトコル - これを選択すると、さまざまなプロトコルのサブメニューが開きます。通信プロトコルは、ECM と診断ツール間のデータ通信の標準化された方法です。グローバル OBD では、複数の異なる通信プロトコルを使用することができます。

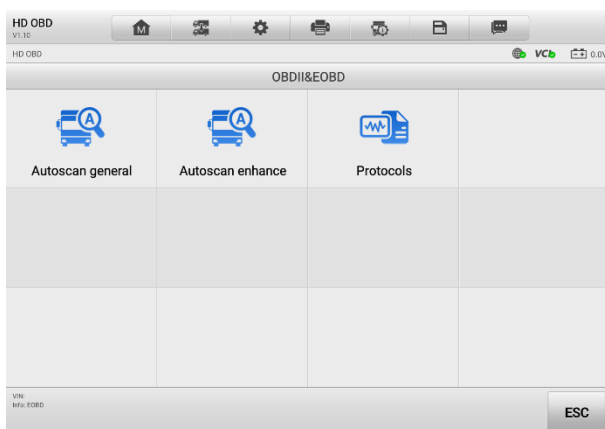


図 -420 EOBD 診断メニュー

3. **Protocols** オプションが選択されている場合は、特定のプロトコルを選択します。OBDII/EOBD 診断メニューが表示されるまで待ちます。
4. 機能オプションを選択して続行します。
 - DTC & FFD
 - I/M 準備
 - ライブデータ
 - O2 センサーモニター
 - オンボードモニター

- コンポーネントテスト
- 車両情報
- 車両ステータス

ⓘ 注意事項

サポートされる機能は車両によって異なる場合があります。

4.8.2 機能の説明

このセクションでは、各診断オプションのさまざまな機能について説明します：

4.8.2.1 DTC & FFD

この機能が選択されると、画面には保存されたコードと保留中のコードのリストが表示されます。ある特定の DTCs の氷結フレーム データが観覧のために利用できるとき、雪片ボタンは DTC 項目の右側に表示されます。画面下部のファンクションボタンをタップすることで、コード消去およびコード読み取り機能を適用できます。

● 現在のコード

現在のコードは、車両の ECM からのエミッション関連の DTC です。OBD II/EOBD コードには、エミッションの重大性に応じて優先順位があり、優先順位の高いコードが優先順位の低いコードを上書きします。コードの優先順位によって、故障表示ランプ (MIL) の点灯とコードの消去手順が決まります。メーカーによってコードのランク付けが異なるため、DTC は車両によって異なる場合があります。

● 保留コード

これらのコードは、最後のドライブサイクルで保存条件が満たされましたが、DTC が保存される前に 2 回以上の連続したドライブサイクルで条件を満たす必要があります。保留コードを表示する目的は、車両修理後に診断情報がクリアされた場合に、1 回の走行サイクルの後にテスト結果を報告することで、サービス技術者を支援することです。

- a) 走行サイクル中にテストが失敗すると、関連する DTC が報告されます。40～80 回のウォームアップサイクルの間に保留中のフォルトが再び発生しなければ、フォルトは自動的にメモリからクリアされます。
- b) 報告されたテスト結果は、必ずしも故障したコンポーネントやシステムを示すものではありません。追加の走行後にテスト結果が別の不具合を示した場合、DTC が保存され、コンポーネントまたはシステムの不具合が示されます。

- フリーズフレーム

ほとんどの場合、保存されたフレームは最後に報告された DTC です。特定の DTC (車両の排出ガスに大きな影響を与える DTC) は、優先順位が高くなります。このような場合、最も優先度の高い DTC がフリーズフレームの記録を保持する DTC となります。フリーズフレームデータには、DTC が保存された時点の重要なパラメータ値の「スナップショット」が含まれます。

- コードの消去

このオプションは、車両の ECM から DTC、フリーズ・フレーム・データ、特定のメーカー強化データを含むすべての排出ガス関連診断データを消去するために使用します。このオプションは、すべての車両モニターの I/M 準備モニター・ステータスを Not Ready または Not Complete ステータスにリセットします。

コード・クリア・オプションを選択すると、データの偶発的な損失を防ぐために確認画面が表示されます。確認画面で **Yes** を選択して続行するか、**No** を選択して終了します。

4.8.2.2 I/M 準備

この機能は本機の準備状態をチェックするために使用します。州の排ガス規制適合のために車両を検査する前に使用するのに最適な機能です。I/M 準備完了を選択すると、2 つの選択肢があるサブメニューが開きます：

- DTCs Cleared 以降 - 前回 DTCs を消去してからのモニターの状態を表示します。
- このドライブサイクル - 現在のドライブサイクルの開始時からのモニターの状態を表示します。

4.8.2.3 ライブデータ

ECU からの PID データをリアルタイムで表示します。表示されるデータには、アナログおよびデジタルの入出力、車両データストリームで放送されるシステムステータス情報が含まれます。

ライブデータはさまざまなモードで表示できます。詳細については、[ライブ・データ](#) を参照してください。

4.8.2.4 O2 センサーモニター

この機能は、車両のオンボードコンピュータに保存されている最近の O2 センサーモニターのテスト結果を取得し、確認することができます。

O2 センサーモニターテスト機能は、コントローラーエリアネットワーク(CAN)を使用して通信する車両には対応していません。CAN 搭載車の O2 センサーモニターテスト結果につ

いては、[オンボードモニター](#) をご参照ください。

4.8.2.5 オンボードモニター

オンボードモニターのテスト結果を表示する機能です。このテストは、車両のコントロールモジュールメモリがすでに消去されている場合、サービス後に役立ちます。

4.8.2.6 コンポーネントテスト

この機能は、診断ツールが車両システムを操作するための制御コマンドを送信できるように、ECM の双方向制御を可能にします。この機能は、ECM がコマンドにどの程度反応するかを判断するのに便利です。

4.8.2.7 車両情報

この機能により、車両識別番号(VIN)、適合識別番号、適合確認番号(CVN)、およびテスト車両のその他の情報を表示できます。

4.8.2.8 車両ステータス

この機能は、OBDII モジュールの通信プロトコル、フォルトコードの数、および誤動作表示灯(MIL)の状態など、車両の現在の状態をチェックします。

4.9 診断レポート

4.9.1 プレスキャンとポストスキャン機能

同じ整備依頼番号を入力してプレスキャンとポストスキャンを実行した後、データ マネージャー> 車両履歴をタップして、整備依頼番号と同じ名前の履歴検査記録を選択します。プレスキャン結果とポストスキャン結果の両方が同じ履歴テストレコードに表示され、プレスキャンとポストスキャン間の変化を簡単に比較するための PDF レポートとして生成することができます。

- プレスキャン機能

車両メニュー画面から車両ボタンを選択し、タップします。ポップアップボックスにメンテナンスオーダー番号を入力すると、車両全体をスキャンして検出します。また、写真を追加して車両の現在の状態を記録することもできます。一度プレスキャンが完了すると、再度プレスキャンを実行することはできず、スキャン結果を変更することもできません。

- ポストスキャン機能

プレスキャン完了後、現在のテスト車両を終了し、車両メニュー画面から車両ボタンをタップして再度接続します。ポップアップボックスに同じメンテナンス 注文番号を入

力します。ポストスキャン用の画面が表示されます。スキャンが完了すると、ポストスキャン記録が生成されます。スキャン前の結果とスキャン後の結果は、同じ履歴テスト記録に表示されます。

⑦ 注意

ポストスキャン機能は繰り返し実行できます。車両から退出した後、車両メニュー画面から車両ボタンをタップして再度接続し、ポップアップボックスに同じメンテナンスオーダー番号を入力し、手順に従って再スキャンするだけです。最後は最終的なスキャン後の結果です。

4.9.2 診断レポートの保存、閲覧、共有

診断レポートは、様々な方法で確認、保存、共有することができます。

4.9.2.1 診断レポートの保存

- 履歴機能

1. Diagnostics アプリケーションのメイン画面に入り、上部ツールバーの **History** をタップします。

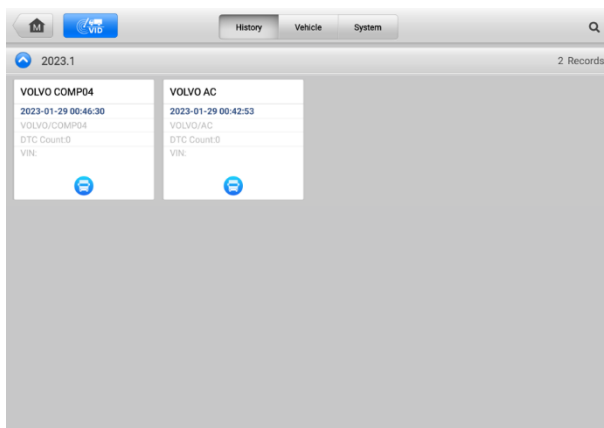


図 -421 履歴画面

2. 履歴レコードを選択し、右上の **...** ボタンをタップします。

Historical Test

Notes

Customer information

First name

Last name

Mobile

View PDF

Print

E-mail

Get Report

Delete

Scan Report 2023-03-02 03:46:35

System	Status
Headlamp auto leveling	Fault 2

DTC

System	Codes	Description	Status
Headlamp auto leveling	P01A4	Please refer to vehicle service manual.	Present
Headlamp auto leveling	P02A4	Please refer to vehicle service manual.	Past

図 -422 履歴テスト画面

3. **Get Report]**をタップします。ナンバープレートと現在の走行距離を入力します。保存をタップします。

● オートスキャン機能

1. オートスキャンページに入り、画面下部のファンクションボタンからフォルトスキャンをタップします。

VOLVO
V2.0C

VOLVO > Automatic selection > Auto scan

VOLVO VCB 12.3V

System List

1	Engine control module (EMS)	Not scanned	▶▶
2	Aftertreatment control module (ACM)	Not scanned	▶▶
3	Transmission (TECU)	Not scanned	▶▶
4	Electronic brake system (EBS)	Not scanned	▶▶
5	Instrument cluster (IC)	Not scanned	▶▶
6	Front axle steering (FAS)	Not scanned	▶▶
7	Cab I/O module (CIOM)	Not scanned	▶▶
8	Human-Machine interface I/O module (HMI/OM)	Not scanned	▶▶
9	Audio (Audio)	Not scanned	▶▶

VIN: VOLVO/VN/VERSION3

Report Quick Erase **Fault Scan** Enter System ESC

図 -423 オートスキャン画面 1

2. システムスキャンが完了したら、画面下部の機能ボタンから「Report」をタップします。

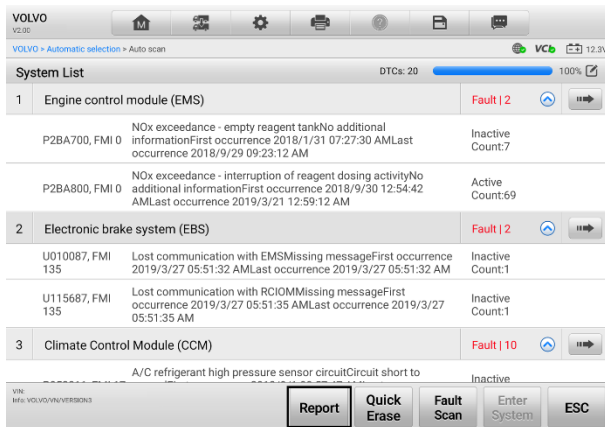


図 -424 自動スキャン画面 2

● 診断ツールバーの機能を介して

診断レポートは、オートスキャン、トラブルコード、ライブデータ、アクティブテストなどの診断機能画面から表示することもできます。保存されたレポートを表示するには 2 つの方法があります：

- ◇ 診断ツールバーの  ボタンをタップし、PDF として保存を選択します。ライセンス番号を入力し、保存をタップします。画面右上の  ボタンをタップしてレポートを表示します。
- ◇ 診断ツールバーの  ボタンをタップし、クラウドへのレポートを選択します。ナンバープレートと現在の走行距離を入力します。**Save > View Report** をタップし、保存したレポートを選択して表示します。

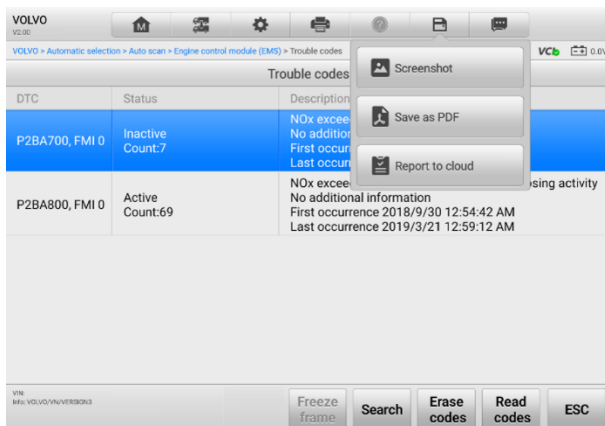


図 -425 トラブルコード画面

4.9.2.2 診断レポートの表示

保存されたすべてのレポートは、データ・マネージャー・アプリケーションで表示できます。

- ✧ **Data Manager > Vehicle History** をタップします。特定の車両履歴レコードを選択し、右上隅にある **PDF 表示** をタップしてレポートを表示します。
- ✧ **Save as PDF** ボタンをタップしてレポートを保存したら、**Data Manager > PDF** をタップしてローカルレポートを表示します。
- ✧ **View Report** または **Save Report** ボタンをタップしてレポートを保存したら、**Data Manager > Cloud Report** をタップして Autel クラウドプラットフォームに保存されたこれらのレポートを表示します。

4.9.2.3 診断レポート クラウド共有

1. **Data Manager > Cloud Report** をタップして、Report List 画面に入ります。

1. 診断セッションを終了するには、[戻る]または[ESC]ボタンをタップします。
 2. 診断ツールバーの車両スワップボタンをタップし、車両メニュー画面に戻ります。
- 車両メニュー画面で
 1. トップツールバーのホームボタンをタップします。
 2. 画面下部のナビゲーションバーで「戻る」ボタンをタップします。
 3. 診断ツールバーのホームボタンをタップしてアプリケーションを直接終了し、MaxiSys ジョブメニューに戻ります。
-

⑧ 注意

Diagnostics アプリケーションを終了すると、タブレットは車両と通信なくなり、他の MaxiSys アプリケーションを開いても安全です。

5 サービス

サービスセクションは、様々な定期サービスやメンテナンスタスクのために車両システムに素早くアクセスできるように特別に設計されています。典型的なサービス操作画面は、一連のメニューによる実行コマンドです。画面の指示に従って適切な実行オプションを選択し、正しい値やデータを入力し、必要なアクションを実行します。アプリケーションには、選択したサービス操作を完了するための詳細な指示が表示されます。

各特殊機能を入力した後、画面には 2 つのアプリケーションの選択肢が表示されます:「診断」と「ホットファンクション」です。診断では、特定の特殊機能を完了した後に必要になることがあるコードの読み取りとクリアが可能です。ホットファンクションは、選択した特殊ファンクションのサブファンクションで構成されます。

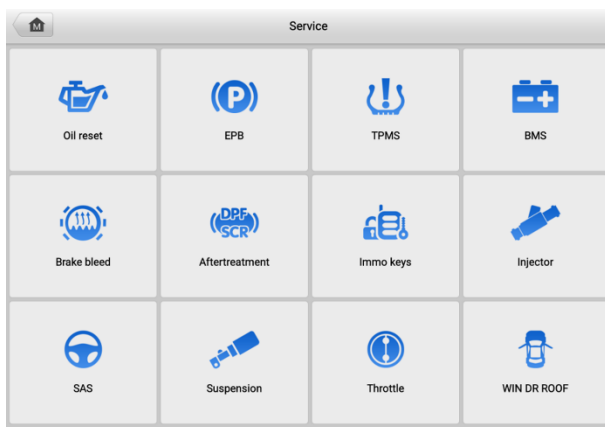


図 -51 サービスメニュー

この章では、最も一般的に使用されるいくつかのサービスについて説明します。

5.1 オイル・リセット・サービス

車両の走行条件や気候に応じて最適なオイル寿命の交換間隔を計算するエンジン・オイル・ライフ・システムのリセットを実行します。オイル交換のたびにオイル寿命リマインダーをリセットする必要があります。

注記

1. オイル交換のたびに、必ずエンジン・オイルの寿命を 100%にリセットしてください。
 2. サービス・インジケータをリセットする前に、必要な作業をすべて実施してください。これを怠ると、サービス値が不正確になり、関連する制御モジュールに DTC が保存される恐れがあります。
 3. 一部の車両では、スキャン ツールによって、メンテナンス サイクルやサービス インターバルなどの追加のサービス ライトをリセットできます。たとえば BMW 車では、エンジン・オイル、スパーク・プラグ、フロント/リア・ブレーキ、冷却水、粒子フィルター、ブレーキ液、マイクロ・フィルター、車両点検、排気ガス点検、車両点検などのサービス・リセットが可能です。
-

5.2 電動パーキングブレーキ(EPB)サービス

この機能は、電子ブレーキシステムを安全かつ効果的に維持するために多くの用途があります。その用途には、ブレーキ制御システムの解除と作動、ブレーキフルード制御の補助、ブレーキパッドの開閉、ディスクまたはパッド交換後のブレーキセッティングなどが含まれます。

5.2.1 EPB の安全性

電動パーキングブレーキ(EPB)システムの整備作業は危険な場合がありますので、整備作業を開始する前に、以下のルールに留意してください。

- ✓ 作業を始める前に、ブレーキシステムとその操作について十分に理解しておいてください。
- ✓ ブレーキ・システムの整備 / 診断作業を行う前に、EPB コントロール・システムを停止する必要がある場合があります。これはツール・メニューから行うことができます。
- ✓ メンテナンス作業は、車両が平地で停止しているときにのみ行ってください。
- ✓ メンテナンス作業終了後、EPB コントロール・システムが再び作動するようにしてください。

ⓘ 注意

オーテルは、電動パーキングブレーキシステムのメンテナンスに起因する事故や負傷について、一切の責任を負いません。

5.3 タイヤ空気圧モニタリングシステム(TPMS)サービス

この機能を使用すると、車両 ECU からタイヤセンサーの ID をすばやく検索したり、タイヤセンサーを交換した後に TPMS の交換やリセットの手順を実行したりすることができます。

5.4 バッテリー管理システム(BMS)サービス

バッテリー管理システム(BMS)により、ツールはバッテリーの充電状態を評価し、閉回路電流を監視し、バッテリー交換を登録し、車両の休息状態をアクティブにし、診断ソケットを介してバッテリーを充電することができます。

⑦ 注意

1. この機能はすべての車両でサポートされているわけではありません。
2. BMS のサブ機能と実際のテスト画面は車両によって異なる場合がありますので、画面の指示に従って正しいオプションを選択してください。

車両には、密閉型鉛蓄電池または吸収ガラスマツト(AGM)蓄電池のいずれかを使用することができます。鉛酸バッテリーには液状の硫酸が含まれており、転倒するとこぼれる可能性があります。AGM バッテリー(VRLA バッテリー、バルブ制御鉛酸として知られる)も硫酸を含んでいますが、酸は端子プレート間のガラスマツトに含まれています。

交換するアフターマーケットバッテリーは、容量やタイプなど、交換前のバッテリーと同じ仕様であることをお勧めします。元のバッテリーを異なるタイプのバッテリー(鉛バッテリーを AGM バッテリーに交換した場合など)や異なる容量(mAh)のバッテリーに交換した場合、バッテリー・リセットの実行に加えて、新しいバッテリー・タイプの再プログラミングが必要になることがあります。車両固有の追加情報については、車両の取扱説明書を参照してください。

5.5 ディーゼル粒子フィルター(DPF)サービス

ディーゼル・パーティクル・フィルタ(DPF)機能は、DPF 再生、DPF コンポーネント交換、ディーチン、およびエンジン・コントロール・ユニット交換後の DPF ディーチンを管理します。

ECM は運転スタイルを監視し、再生に適した時期を選択します。アイドリング速度や低負荷での走行が多いクルマは、高負荷・高速走行が多いクルマよりも早く再生を試みます。再生が行われるためには、長時間高い排気温度が得られる必要がある。

頻繁に短距離を走行するなど、再生が不可能な状態で走行した場合、DPF ランプと "Check Engine" インジケータが表示されるだけでなく、最終的には診断トラブルコードが登録されます。サービス再生は、診断ツールを使用してワークショップで依頼することができます。

診断ツールを使用して DPF の強制再生を行う前に、以下の項目を確認してください：

- 燃料ランプが点灯していないこと。
- DPF 関連の故障がシステムに保存されていない。
- 車両に指定のエンジンオイルが使用されている。

- ディーゼル用オイルが汚染されていないこと。

❶ 重要

問題のある車両を診断し、緊急再生を試みる前に、完全な診断ログを取得し、関連する測定値ブロックを読み出すことが重要です。

🔍 注意

1. エンジン管理ランプが点灯している場合、または EGR バルブに異常がある場合、DPF は再生されません。
2. DPF の交換時および燃料添加剤 Eolys の補充時には、ECU の再調整が必要です。
3. DPF を交換する際、車両を運転する必要がある場合は、2 人目の作業者が必要です。一人が車両を運転し、もう一人がツールの画面を観察してください。運転とスキャンツールの観察を同時に行わないでください。これは危険であり、あなたや他のモーター、歩行者の命を危険にさらすことになります。

5.6 イモビライザー(IMMO)サービス

イモビライザーとは、正しいイグニッションキーやその他の装置がない限り、自動車のエンジンが始動しないようにする盗難防止機構です。この装置は、ホットワイヤリングと呼ばれる方法によって窃盗犯が自動車を始動させるのを防ぎます。ほとんどの新車にはイモビライザーが標準装備されている。このシステムの重要な利点は、車の所有者が作動させる必要がなく、自動的に作動することである。イモビライザーは、可聴アラームだけよりもはるかに効果的な盗難防止を提供すると考えられており、多くの自動車保険会社は、イモビライザーを装備した車両に低い料金を提供しています。

盗難防止装置として、イモビライザーは車のエンジンを始動させるのに必要なシステムのひとつ(通常は燃料供給装置またはイグニッション)を無効にします。これは、イグニッション・キー内のトランスポンダーと、ステアリング・コラム内の無線周波数リーダーと呼ばれる装置との間の無線周波数識別によって実現される。キーをイグニッションに差し込むと、トランスポンダーが固有の識別コードを持つ信号をリーダーに送り、リーダーはそれを車両のコンピューター制御モジュール内の受信機に中継する。コードが正しければ、コンピューターは燃料供給と点火システムの作動を許可し、車を始動させる。コードが正しくないか存在しない場合、コンピューターはシステムを無効にし、正しいキーがイグニッションに差し込まれるまで車は始動できなくなります。

IMMO サービスでは、紛失した車両キーを無効にし、交換用キー FOB をプログラムすることができます。1 つまたは複数の交換用キー FOB をプログラムすることができます。

5.7 ステアリングアングルセンサー(SAS)サービス

SAS キャリブレーションは、現在のステアリングホイール位置を直進位置として SAS EEPROM に永久保存します。そのため、前輪とステアリングホイールを正確に直進位置に設定してからキャリブレーションを行う必要があります。さらに、VIN も計器クラスタから

読み取られ、SAS EEPROM に永久に保存されます。キャリブレーションが正常に完了すると、SAS フォルトメモリーは自動的にクリアされます。

キャリブレーションは、以下の作業の後に必ず実施してください：

- ステアリング・ホイールの交換
- SAS の交換
- SAS からコラムへのコネクタハブを開けるようなメンテナンス。
- ステアリングリンケージ、ステアリングギア、またはその他の関連機構のメンテナンスまたは修理作業
- ホイールアライメントまたはホイール軌道の調整
- SAS、アセンブリ、またはステアリングシステムの一部に損傷が生じた可能性のある事故の修理。

🔍 注意事項

1. オーテルは、SAS システムの整備に起因するいかなる事故または負傷に対しても責任を負いません。車両から取得した DTC を解釈する場合は、必ずメーカーの推奨する修理方法に従ってください。
 2. 本書に記載されているソフトウェア画面はすべて例であり、実際のテスト画面はテスト車両によって異なる場合があります。メニューのタイトルと画面上の指示に注意し、正しいオプションを選択してください。
 3. 手順を開始する前に、車両に ESC ボタンがあることを確認してください。ダッシュボードにボタンがあることを確認してください。
-

6 データマネージャー

データマネージャーアプリケーションでは、保存したファイルの保存、印刷、確認、ワークショップ情報、顧客情報記録の管理、テスト車両の履歴記録を行うことができます。

データマネージャーアプリケーションを選択すると、ファイルシステムメニューが開きます。利用可能な主な機能は 9 つあります。



図 -61 データマネージャー メイン画面

以下の表では、データマネージャーアプリケーションの各機能ボタンについて簡単に説明します。

表 -61 データマネージャーのボタン

ボタン	ボタン名	説明
	車両履歴	タップして診断履歴記録を確認します。
	ワークショップ ワークショップ情報	タップするとワークショップの情報を編集できます。
	顧客情報	タップすると顧客情報を新規作成できます。

ボタン	ボタン名	説明
	画像	タップするとスクリーンショットを確認できます。
	クラウドレポート	保存されたレポートを確認したり、クラウドレポートを共有するにはタップします。
	PDF	タップすると、PDF ファイルとして保存されたレポートを確認できます。
	データのレビュー	タップすると、記録されたデータを確認できます。
	データロギング	タップすると、車両の通信データと ECU 情報を確認できます。保存したデータは、インターネット経由でテクニカルセンターに報告・送信することができます。
	アプリのアンインストール	タップすると、アプリケーションをアンインストールできます。

6.1 車両履歴

この機能は、車両情報と以前の診断セッションから検索された DTC を含むテスト車両の履歴の記録を保存します。テスト情報は要約され、読みやすいテーブルリストに表示されます。車両履歴はまた、以前にテストされた車両への直接アクセスを提供し、自動または手動車両選択を実行することなく、直接診断セッションを再開することができます。

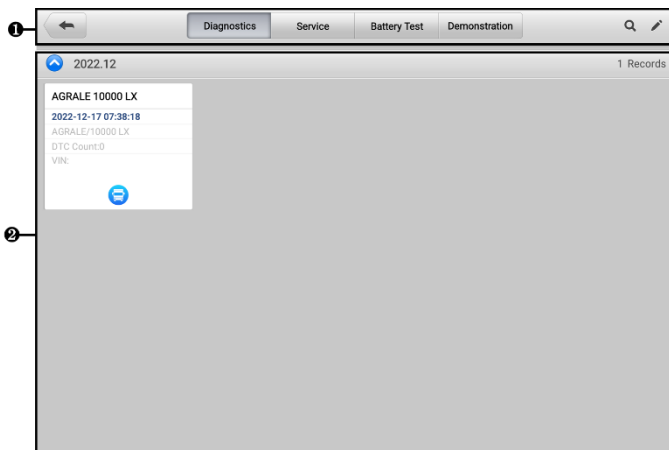


図 -62 車両履歴画面

1. トップツールバーボタン - ナビゲーションとアプリケーションコントロール。
2. メインセクション - すべての車両履歴記録が表示されます。
- 記録された車両のテストセッションをアクティブにするには
 1. MaxiSys Job Menu のデータマネージャーをタップします。
 2. 車両履歴を選択して画面を開きます。関連するアプリケーションタブをタップしてテストレコードを選択します。例えば、診断テスト記録を選択するには、**診断**をタップします。
 3. 車両記録項目のサムネイルの下にある**診断**アイコンをタップします。
 4. 車両の診断画面が表示され、新しい診断セッションが有効になります。診断を続けるには、**診断**を参照してください。
 5. 車両のサムネイルを選択して記録を開きます。履歴テスト記録シートが表示されます。テスト車両の記録情報を確認し、右上の**診断**ボタンをタップします。

ⓘ 注意

過去にテストした車両のテストセッションを再開するには、MaxiSys タブレットが VCI デバイスとの安定した接続を確立する必要があります。

6.1.1 ヒストリカルテスト レコード

ヒストリカルテストレコードは、一般的な車両情報、サービスレコード、顧客情報、および以前のテストセッションから取得した診断トラブルコードを含む車両の詳細なデータフォームです。また、技術者のメモがある場合は表示されます。

System	Codes	Description	Status
Headlamp auto leveling	P01A4	Please refer to vehicle service manual.	Present
Headlamp auto leveling	P02A4	Please refer to vehicle service manual.	Past

図 -63 ヒストリカル・テスト記録シート

➤ 履歴テスト記録を編集するには

1. MaxiSys Job Menu の データマネージャーをタップします。
2. 車両履歴を選択します。
3. メインセクションから特定の車両履歴レコードサムネイルを選択します。ヒストリカルテストレコードが表示されます。
4. 編集(ペンのアイコン)をタップして編集を開始します。
5. 各項目をタップして情報を入力したり、ファイルや画像を添付します。

🔗 注意事項

車両の車体番号、ライセンス番号、および顧客アカウント情報は、デフォルトで関連付けられています。車両記録は、この車両と顧客の識別情報を使用して自動的に関連付けられます。

6. 履歴テスト記録シートを既存の顧客アカウントに関連付けるには、[顧客に追加]をタップするか、テスト車両記録に関連付ける新しい関連アカウントを追加します。詳細は、[顧客](#)。
7. **Done(完了)**」をタップして更新した記録を保存するか、「**Cancel(キャンセル)**」をタップして保存せずに終了します。

6.2 ワークショップ情報

ワークショップ情報フォームでは、ショップ名、住所、電話番号、その他の備考など、詳細なワークショップ情報を編集、入力、保存することができます。

Workshop information	
Basic information	
Set shop logo	Logo
Shop name	Tel
State	Fax
City	E-mail
Zip code	
Address	
More information	
Manager name	Manager title
Website	
Slogan	

図 -64 ワークショップ情報シート

➤ ワークショップ情報シートを編集するには

1. MaxiSys Job Menu の データマネージャーアプリケーションをタップします。
2. **Workshop Information** を選択します。
3. 各フィールドをタップして適切な情報を入力します。
4. **Done** をタップして更新されたワークショップ情報レコードを保存するか、**Cancel** をタップして保存せずに終了します。

6.3 顧客

顧客機能では、顧客アカウントを作成および編集することができます。これは、関連するテスト車両の履歴レコードと相関するすべての顧客情報アカウントを保存し、整理するのに役立ちます。

➤ **カスタマーアカウントを作成するには**

1. MaxiSys Job Menu のデータマネージャーアプリケーションをタップします。
2. **Customer** を選択します。
3. **Add a Customer** ボタンをタップします。空の情報フォームが表示されるので、各フィールドをタップして適切な情報を入力します。

🕒 **注意**

入力が必要な項目は必須項目として表示されます。

4. 顧客によっては、複数のサービス対象車両を所有している場合があります。**新しい車両情報を追加**をタップし、車両情報を入力します。キャンセルするには、❌ ボタンをタップします。
5. **OK** をタップしてアカウントを保存するか、**キャンセル**をタップして保存せずに終了します。

➤ **顧客アカウントを編集するには**

1. MaxiSys Job Menu の データマネージャーをタップします。
2. **Customer** を選択します。
3. 対応するネームカードをタップしてカスタマーアカウントを選択します。Customer Information レコードが表示されます。
4. 編集を開始するには、上部ツールバーの**編集**をタップします。
5. 情報を編集または修正するために入力フィールドをタップし、更新された情報を入力します。
6. 更新した情報を保存するには「**完了**」をタップし、保存せずに終了するには「**キャンセル**」をタップします。

➤ **顧客アカウントを削除するには**

1. MaxiSys Job Menu の データマネージャーをタップします。
2. **Customer** を選択します。
3. カスタマーアカウントの右にある **Delete** アイコンをタップします。メッセージ

が表示されます。

4. **OK** をタップしてコマンドを確定し、アカウントを削除するか、**[Cancel]** をタップしてリクエストをキャンセルします。

6.4 画像

Image セクションは、キャプチャされたすべてのスクリーンショットを含む PNG データベースです。



図 -65 画像データベース画面

1. ツールバーボタン - 画像ファイルの編集、印刷、削除に使用します。[表 -62 PNG データベースのツールバーボタン](#) を参照してください。
2. メインセクション - 保存されている画像を表示します。

表 -62 PNG データベースのツールバーボタン

ボタン名	ボタン名	説明
	戻る	前の画面に戻ります。
	検索	タップすると、保存されている時間を入力して画像を検索できます。
	編集	タップすると編集ツールバーが表示され、画像の選択、削除、印刷、メール送信ができます。
	キャンセル	編集ツールバーを閉じたり、ファイル検索をキャンセルするには、 をタップします。

ボタン名	ボタン名	説明
	印刷	タップして選択した画像を印刷します。
	削除	タップすると選択した画像が削除されます。
	メール送信	タップすると、選択した画像をメールに送信します。

➤ 画像を編集／削除するには

1. MaxiSys Job Menu から データマネージャーを選択します。
2. **Image** を選択して PNG データベースにアクセスします。
3. ウィンドウ右上の編集をタップします。編集画面が表示されます。
4. 画像の右下にあるチェックボックスをタップして、編集したい画像を選択します。
5. 削除アイコンをタップして、選択した画像を削除するか、すべての画像を削除します。印刷アイコンをタップすると、選択した画像を印刷できます。選択した画像をメールで送信するには、メールアイコンをタップします。

6.5 クラウドレポート

このセクションには、保存されたレポートが表示されます。このレポートは、安定したネットワーク接続が確立されると、オーテルのクラウドプラットフォームに転送できます。これらのレポートは、表示したり、他の人と共有したりできます。詳細については、[スキャンレポート](#) および [診断レポートの保存、閲覧、共有](#) を参照してください。

6.6 PDF ファイル

ローカル表示用に指定された PDF ファイルがこのセクションに表示されます。PDF データベースに入り、ファイルを選択すると、保存された情報にアクセスできます。

このセクションでは、ファイルの表示と編集に標準の Adobe Reader アプリケーションを使用します。より詳細な手順については、関連する Adobe Reader のマニュアルを参照してください。

6.7 レビューデータ

Review Data セクションでは、ライブ・データ・ストリームの録画データ・フレームを再生することができます。

Review Data メイン画面で、再生する記録ファイルを選択します。

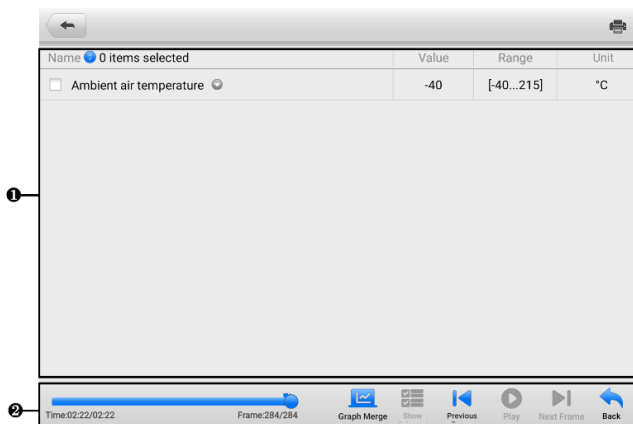


図 -66 データ再生画面

1. メインセクション - 記録されたデータフレームを表示します。
2. ナビゲーションツールバー - データ再生を操作できます。

ナビゲーションツールバーのボタンを使用して、記録データをフレームからフレームに再生します。

データ再生を終了するには、「戻る」をタップします。

6.8 データロギング

データロギングセクションでは、Support platform を直接起動して、診断システム上のすべてのフィードバックまたはフィードバックなしのデータロギングのすべての記録を表示できます。詳細については、[データロギング](#) を参照してください。

6.9 アプリのアンインストール

このセクションでは、MaxiSys 診断システムにインストールされているソフトウェアアプリケーションを管理します。このセクションを選択すると管理画面が開き、利用可能なすべての車両診断アプリケーションを確認することができます。

車両メーカーのアイコンをタップして削除したい車両ソフトウェアを選択してください。選択した項目は右上に青いマークが表示されます。上部ツールバーの削除ボタンをタップすると、システムデータベースからソフトウェアが削除されます。

7 設定

設定メニューにアクセスし、デフォルト設定の調整や MaxiSys システムに関する情報を表示します。MaxiSys システムの設定には以下のオプションがあります：

- ユニット
- 言語
- 印刷設定
- スキャンレポート
- プッシュ通知
- 自動更新
- 車両リスト
- システム設定
- システム設定

7.1 単位

このオプションでは、診断システムの測定単位を変更できます。

- 単位設定を調整するには
 1. MaxiSys Job Menu の **Settings** アプリケーションをタップします。
 2. 左側の列にある[**Unit**]オプションをタップします。
 3. 適切な測定単位、メートル、インペリアル、またはアメリカ単位を選択します。選択した単位の右側にチェックマークが表示されます。
 4. 左上の **Home** ボタンをタップして MaxiSys Job Menu に戻るか、システムセットアップのために別の設定オプションを選択します。

7.2 言語

このオプションでは、MaxiSys システムの表示言語を調整できます。

- 言語設定を調整するには
 1. MaxiSys Job Menu の **Settings** アプリケーションをタップします。
 2. 左側の列の **Language** オプションをタップします。
 3. 適切な言語を選択します。選択した言語の右側にチェックマークが表示されます。
 4. 左上の **Home** ボタンをタップして MaxiSys Job Menu に戻るか、システムセットアップのために別の設定オプションを選択します。

7.3 印刷 設定

このオプションを使用すると、タブレットからコンピュータ経由でネットワークプリンタに印刷できます。

➤ **プリンタ接続を設定するには**

1. MaxiSys ジョブメニューの【設定】をタップします。
2. 左の列で**印刷設定**をタップします。
3. **PC-Link 経由で印刷**または**Wi-Fi 経由で印刷**をタップし、印刷機能を有効にします。この機能は、Wi-Fi またはイーサネット接続経由でデバイスが PC を経由してプリンタ にファイルを送信することを可能にします。
4. 左上のホームボタンをタップして MaxiSys ジョブメニューに戻るか、システムセッアップのために別の設定オプションを選択します。

7.3.1 印刷操作

➤ **MaxiSys プリントドライバをインストールするには**

1. > www.autel.comSupport > Downloads > Autel Update Tools から **Maxi PC Suite** をダウンロードし、Windows ベースの PC にインストールします。
2. **Setup.exe** をダブルクリックします。
3. インストール言語を選択すると、ウィザードがロードされます。
4. 画面の指示に従い、**[次へ]**をクリックして続行します。
5. **インストール**をクリックすると、プリンタドライバプログラムが PC にインストールされます。
6. **完了**をクリックしてインストールを完了します。

🔍 **注意**

インストール後、MaxiSys プリンタは自動的に起動します。PC、プリンタ、タブレットは同じネットワークに接続されている必要があります。

このセクションでは、MaxiSys タブレットからファイルを受信し、PC から印刷を実行する方法について説明します。

🔍 **注意**

- 印刷を行う前に、タブレットが Wi-Fi または LAN 経由で PC と同じネットワークに接続されていることを確認してください。
 - 印刷サービスプログラムがインストールされた PC がプリンタに接続されていることを確認します。
-

➤ **PC から印刷するには**

1. 印刷前に、タブレットが Wi-Fi または LAN 経由で PC のネットワークに接続されていることを確認します。

2. パソコンで **PC Link** プログラムを実行します。
3. **MaxiSys Printer** タブを選択します。
4. タブレット上部のツールバーの印刷ボタンをタップします。文書がコンピュータに送信されます。
 - MaxiSys Printer の **Auto Print** オプションが選択されている場合、MaxiSys Printer は受信したドキュメントを自動的に印刷します。
 - 自動印刷オプションが選択されていない場合は、**[PDF ファイルを開く]** ボタンをクリックしてファイルを表示します。印刷するファイルを選択し、**Print** をクリックします。



注
プリンタが正常に機能していることを確認するには、PC Link プログラムで **Test Print** をクリックしてテストすることができます。

7.4 スキャンレポート

このセクションには 2 つのオプションがあります: スキャンレポートとクラウドへのレポートアップロードです。

- スキャンレポート
オン/オフボタンを切り替えて、プレスキャンとポストスキャン機能の有効/無効を切り替えます。プレスキャンおよびポストスキャン機能の詳細については、[プレスキャンとポストスキャン機能](#) を参照してください。
- クラウドへのレポートアップロード
このオプションは、車両の診断情報を自動的に車両履歴に同期し、ユーザーがアップロードするための診断レポートを形成します。クラウドへのレポートアップロード機能の **ON/OFF** ボタンをタップします。機能が有効の場合はボタンが青く表示され、無効の場合はグレーで表示されます。クラウドへのレポートアップロード機能の詳細については、[診断レポートの保存、閲覧、共有](#) を参照してください。



注
レポートのアップロード中は、タブレットがインターネットに接続されていることを確認してください。

7.5 プッシュ通知

このオプションでは、通知を管理できます。システム・セキュリティ警告などの特定のシステム通知がブロックされないように、**[通知設定]** オプションはデフォルトでオンになっており、ユーザーがオフにすることはできません。オンライン・メッセージを受信するには、インターネット・アクセスが必要です。

- その他の通知を管理するには

1. MaxiSys Job Menu の **Settings** をタップします。
2. 左側の列にある **Push Notifications** をタップします。
3. その他の通知]オプションの右にある▼ ボタンをタップし、ドロップダウンリストを開きます。
4. 4 つのオプションがあります:すべての通知を有効にする」、「通知を週 3 回以下に制限する」、「通知を週 1 回に制限する」、「すべての通知を無効にする」。好きな方を選んでください。
5. 左上の **Home** をタップして MaxiSys Job Menu に戻るか、システムセットアップのための別の設定オプションを選択します。

ⓘ 注意

- 通知は画面に表示されます。受信したメッセージを確認するには、画面を上からスライドします。メッセージリストが複数の画面にまたがっている場合は、リストを上下にスライドして表示します。
- 特定のメッセージをタップすると、対応するアプリケーションが起動します。例えば、Update 通知をタップすると、Update アプリケーションが起動します。

7.6 自動アップデート

オートアップデートは、OS、MaxiSys システム、車両カバレッジソフトウェアを自動的にアップデートするツールです。それぞれ、指定した時間に自動でアップデートするように設定することができます。**ON/OFF** ボタンをタップし、自動更新の有効/無効を設定します。

➤ システムまたは車両の自動更新を設定するには

1. MaxiSys ジョブメニューの**設定**アプリケーションをタップします。
2. 左カラムの**自動更新**オプションをタップします。画面の右側に 3 つの自動更新項目が表示されます。
3. スケジュールするアップデートタイプを選択します。ボタンを **ON** に切り替えます。
4. 時間をタップして更新する時間帯を設定します。アップデート時間を設定し、デバイスがインターネットに接続されている場合、設定した時間に選択したソフトウェアが自動的にアップデートされます。

7.7 車両リスト

このオプションでは、アルファベット順または使用頻度順に車両を並べ替えることができます。

➤ 車両リストの設定を調整するには

1. MaxiSys ジョブメニューの**設定**アプリケーションをタップします。
2. 左の列の**車両リスト**をタップします。
3. 必要なソートタイプを選択します。選択した項目の右にチェックマークが表示され

ます。

4. 左上のホームボタンをタップして MaxiSys ジョブメニューに戻るか、システム設定のために別の設定オプションを選択します。

7.8 システム設定

この機能により、Android システム設定インターフェースに直接アクセスし、Android システムプラットフォームの様々なシステム設定を調整することができます。ワイヤレスやネットワークの設定、サウンドやディスプレイなどの各種デバイス設定、システムセキュリティ設定、Android システムに関する関連情報の確認などを行うことができます。詳細については、Android のドキュメントを参照してください。

7.9 バージョン情報

About 機能は、製品名、バージョン、ハードウェア、シリアル番号など、MaxiSys 診断デバイスの情報を提供します。

➤ **About で MaxiSys 製品情報を確認するには**

1. MaxiSys Job Menu の **Settings** アプリケーションをタップします。
2. 左カラムの[**About**]オプションをタップします。右側に製品情報画面が表示されます。
3. 左上の **Home** ボタンをタップして MaxiSys Job Menu に戻るか、システムセットアップのために別の設定オプションを選択します。

8 VCI マネージャ

このアプリケーションはタブレットと VCI デバイスをペアリングし、通信ステータスをチェックし、VCI ファームウェアをアップデートします。

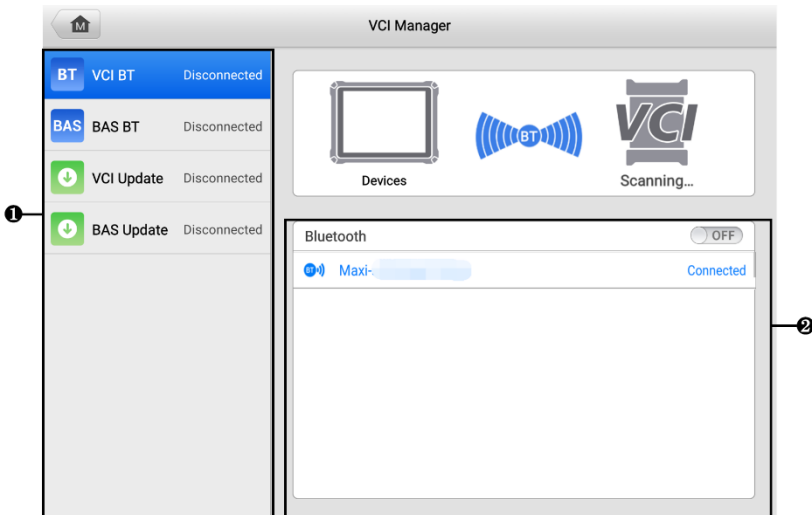


図 -81 VCI マネージャー画面

1. 接続モード - 選択可能な接続モードは 4 つあります。接続状態が表示されます。
 - VCI BT - VCI が Bluetooth 経由でデバイスとペアリングされている場合、接続ステータスは "Connected" と表示されます。それ以外の場合は "Disconnected" と表示されます。
 - BAS BT - Bluetooth 経由でバッテリーテスターとペアリングすると、接続ステータスが "Connected" と表示されます。それ以外は "Disconnected" と表示される。
 - VCI アップデート - 最初に Bluetooth で VCI を診断タブレットに接続し、タブレットを介して VCI のファームウェアをアップデートします。
 - BAS アップデート - タブレットを介してインターネット経由で BT506 バッテリー・テスターのファームウェアをアップデートします。
2. ブルートゥース設定

Bluetooth ON/OFF ボタンを **ON** に切り替えます。Bluetooth 設定画面には、ペアリング可能なすべてのデバイスのデバイス名が表示されます。必要なものをタップしてペアリングを開始できます。デバイス名の左に表示される BT ステータスアイコンは、受信信号強度を示します。

8.1 VCI の Bluetooth ペアリング

VCI デバイスを車両に接続し、同期手順中に電源が供給されるようにする必要があります。タブレットに十分なバッテリーがあるか、外部電源に接続されていることを確認してください。

➤ **VCI デバイスとタブレットをペアリングするには**

1. タブレットの電源を入れる。
2. メインケーブルの 26 ピン側を VCI デバイスの車両データコネクタに接続します。
3. メインケーブルの 16 ピン側を車両のデータリンクコネクタ(DLC)に接続します。
4. タブレットの MaxiSys ジョブメニューで **VCI Manager** アプリケーションをタップします。
5. 左カラムの接続モードリストから **VCI BT** を選択します。
6. Bluetooth ON/OFF ボタンを **ON** に切り替えます。右上のスキャンボタンをタップします。デバイスが利用可能なペアリング・ユニットの検索を開始します。
7. デバイス名の末尾に "Maxi-" とシリアル番号が表示される場合があります。ペアリングに適したデバイスを選択します。
8. ペアリングが成功すると、デバイス名の右側に接続ステータスが "Connected" と表示されます。
9. 接続されると、VCI Manager ショートカットの右下に BT バッジが表示され、VCI デバイスの Connection LED が青く点灯し、タブレットが VCI デバイ스에 接続され、車両診断を実行する準備ができていることを示します。接続されているデバイスを切断する必要がある場合は、もう一度タップします。
10. 左上のホームボタンをタップして、MaxiSys ジョブメニューに戻ります。

🔍 **注意**

VCI デバイスは一度に 1 台のタブレットにのみ接続でき、一度接続すると他のデバイスから検出できなくなります。

8.2 BAS Bluetooth ペアリング

BT506 バッテリー・テスター・デバイスは、Bluetooth 経由でタブレットと接続できます。使用前に、BT506 バッテリー・テスターが十分に充電されているか、外部電源に接続されていることを確認してください。

➤ **バッテリーテスターとタブレットをペアリングするには**

1. 診断タブレットとバッテリーテスターの電源を入れます。
2. 赤のクランプをバッテリーのプラス(+)端子に、黒のクランプをバッテリーのマイナス(-)端子に接続します。
3. タブレットの MaxiSys Job Menu で **VCI Manager** をタップします。
4. 左列の Connection Mode リストから **BAS BT** を選択します。

5. Bluetooth ON/OFF ボタンを **ON** に切り替えます。画面右上の **Scan** をタップします。デバイスがペアリング可能なユニットの検索を開始します。
6. バッテリーテスターの種類によっては、バッテリーテスターのシリアル番号の後に "Maxi-" と表示される場合があります。ペアリングに適切な機器を選択します。
7. ペアリングに成功すると、接続ステータスが "Connected" と表示されます。

8.3 VCI アップデート

8.3.1 タブレット経由でのアップデート

VCI ファームウェア()をアップデートする前に、タブレットのインターネット接続が安定していることを確認してください。

- タブレット経由で VCI ファームウェアを更新するには
 1. タブレット の電源を入れます。
 2. VCI デバイスを Bluetooth でタブレットに接続します。
 3. タブレットの MaxiSys Job Menu で **VCI Manager** アプリケーションをタップします。
 4. 左カラムの接続モードリストから「**VCI Update**」を選択します。
 5. 数秒後に VCI ファームウェアの現在のバージョンと最新バージョンが表示されます。**今すぐアップデート**を選択すると、VCI ファームウェアのアップデートが可能です。

8.3.2 PC 経由でアップデート

- PC 経由で VCI ファームウェアをアップデートするには
 1. **Maxi PC Suite** ソフトウェアを www.autel.com > **Support** > **Downloads** > **Autel Update Tools** からダウンロードし、PC にインストールします。
 2. VCI デバイスを Bluetooth 経由で PC に接続します。
 3. インストール後に **Maxi PC Suite** を起動し、Device Selection ウィンドウの VCI デバイスアイコンをクリックします。
 4. PC は自動的に VCI デバイスを認識します。
 5. アップデートがある場合は、**アップデート**をクリックしてアップデートを完了します。

8.4 BAS アップデート

バッテリーテスターのファームウェアをアップデートする前に、ネットワーク接続が安定していることを確認してください。

➤ **バッテリーテスターのファームウェアをアップデートするには**

1. 診断タブレットとバッテリーテスタの電源を入れます。
2. バッテリーテスターを Bluetooth でタブレットに接続します。
3. タブレットの MaxiSys Job Menu で **VCI Manager** アプリケーションをタップします。
4. 左列の接続モードリストから **BAS Update** を選択します。
5. 数秒後にバッテリーテスターのファームウェアの現在のバージョンと最新バージョンが表示されます。利用可能な場合は、**[Update Now]**をタップしてバッテリーテスタのファームウェアを更新します。



注意

アップグレード中は BAS Update ページから離れないでください。

9 サポート

このアプリケーションは、Autel のオンラインサービスベースステーションと MaxiSys タブレットを同期する Support プラットフォームを起動します。Autel のサービスチャネルとオンラインコミュニティに接続された Support アプリケーションは、問題解決への最短ルートを提供し、ヘルプリクエストを送信して直接サービスとサポートを受けることができます。

9.1 サポート画面レイアウト

サポート・アプリケーションのインターフェイスは、上部ツールバーのホーム・ボタンで操作します。そして、サポート画面のメインセクションは 2 つのセクションに分かれています。左側の細い列はメインメニューです。メインメニューから 1 つのテーマを選択すると、右側に対応する機能画面が表示されます。

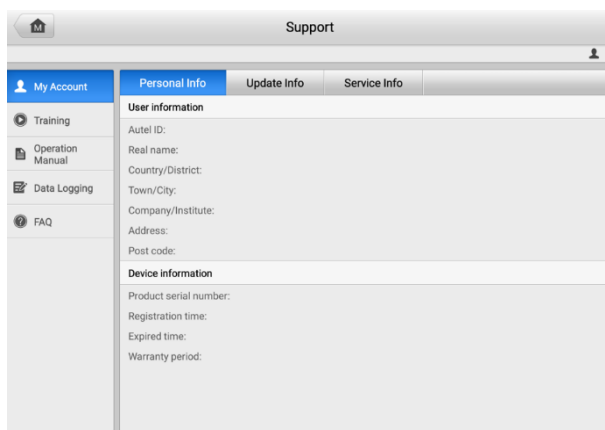


図 -91 サポート申請画面

9.2 マイアカウント

マイアカウント画面には、個人情報、更新情報、サービス情報など、オンライン登録アカウントと同期されたユーザーと製品の総合的な情報が表示されます。

9.2.1 個人情報

個人情報には、ユーザー情報とデバイス情報が含まれます。

- ユーザー情報 - Autel ID、氏名、住所、その他の連絡先情報など、オンライン登録された Autel アカウントの詳細情報が表示されます。

- デバイス情報 - 製品のシリアル番号、登録時間、有効期限、保証期間など、登録された製品情報が表示されます。

9.2.2 アップデート情報

アップデート情報] セクションには、製品のシリアル番号、ソフトウェア バージョンまたは名前、アップデート時間など、製品のソフトウェア アップデート履歴の詳細リストが表示されます。

9.2.3 サービス情報

サービス情報セクションには、デバイスのサービス履歴情報の詳細な記録リストが表示されます。デバイスが修理のためにオーテルに返送されるたびに、デバイスのシリアル番号や、故障の種類、変更されたコンポーネント、システムの再インストールなどのその他の情報が記録され、関連するオンライン製品アカウントに更新されます。

9.3 トレーニング

トレーニングセクションには、オーテルのオンラインビデオアカウントへのクイックリンクがあります。言語別にビデオチャンネルを選択すると、製品の使用方法や車両診断方法などのトピックに関するすべての利用可能なオーテルのオンラインチュートリアルビデオを見ることができます。

9.4 操作マニュアル

操作マニュアルのセクションでは、Uni-4 ケーブルとさまざまな形式の WABCO ECU を図式化し、ユーザーに必要な基本情報を提供します。

9.5 データロギング

データロギングセクションは、診断システム上のすべてのフィードバック(送信済み)、フィードバックなし(送信されていないが保存されている)、または履歴(最新のテスト記録 20 件まで)のデータロギングの記録を保持します。サポート担当者は、サポートプラットフォームを通じて提出されたレポートを受け取り、処理します。解決策はできるだけ早く返送されます。問題が解決するまで、サポート・プラットフォームとのやり取りを続けることができます。

➤ データロギングセッションで返信するには

1. フィードバックタグをタップして、送信されたデータロギングのリストを表示します。
2. 特定の項目を選択すると、処理進捗の最新アップデートが表示されます。

3. 画面下部の入力フィールドをタップして返信内容を入力するか、音声ボタンをタップして音声メッセージを録音するか、カメラボタンをタップしてスクリーンショットを撮影します。
4. **送信** をタップして、メッセージを Autel サポートに送信します。

9.6 よくある質問

FAQ セクションは、オーテルのオンラインメンバーアカウントの使用方法、ショッピングおよび支払い手順についてよくある質問とその回答をまとめた総合的なリファレンスを提供します。

- アカウント - オーテルのオンラインユーザーアカウントの使用に関する質問と回答が表示されます。
- ショッピング - オンラインでの製品購入方法や手続きに関する質問と回答が表示されます。
- 支払い - オンライン製品の支払い方法や手続きに関する質問と回答が表示されます。

10 リモートデスクトップ

リモートデスクトップアプリケーションは、シンプルで高速かつ安全なリモートコントロールインターフェースである TeamViewer Quick Support プログラムを起動します。このアプリケーションを使用して、TeamViewer ソフトウェア経由で PC 上の MaxiSys タブレットを操作できるようにすることで、Autel のサポートセンター、同僚、または友人からアドホックリモートサポートを受けることができます。

10.1 操作

TeamViewer 接続を電話として考える場合、TeamViewer ID は、すべての TeamViewer クライアントに個別に連絡できる電話番号となります。TeamViewer を実行するコンピュータおよびモバイルデバイスは、グローバルに一意の ID によって識別されます。リモートデスクトップアプリケーションの初回起動時に、この ID はハードウェアの特性に基づいて自動的に生成され、変更されることはありません。

リモートデスクトップアプリケーションを起動する前に、タブレットがインターネットに接続されていることを確認し、タブレットがサードパーティからのリモートサポートを受信できるようにします。

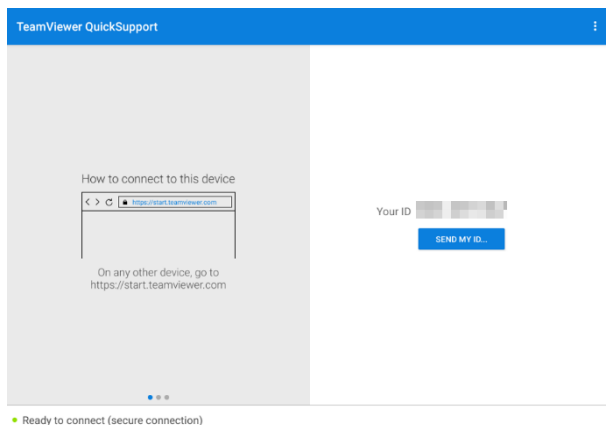


図 -101 リモートデスクトップ画面

- パートナーからリモートサポートを受けるには
 1. タブレットの電源を入れます。
 2. MaxiSys ジョブメニューのリモートデスクトップアプリケーションをタップします。TeamViewer インタフェースが表示され、デバイス ID が生成されて表示されます。

3. パートナーは、TeamViewer フルバージョンのプログラムをオンライン (<http://www.teamviewer.com>) でダウンロードして、リモートコントロールソフトウェアを自分のコンピュータにインストールし、ソフトウェアを起動する必要があります。
4. 自分の ID をパートナーに提供し、パートナーからリモートコントロール要求が送信されるのを待ちます。
5. デバイスでリモートコントロールを許可するかどうかを確認するメッセージが表示されます。
6. 許可する場合は[許可]をタップし、拒否する場合は[拒否]をタップします。

詳細については、関連する TeamViewer のドキュメントを参照してください。

11 アップデート

タブレットの[アップデート]アプリケーションは、ソフトウェアの最新バージョンをダウンロードします。アップデートは、MaxiSys アプリケーションの機能を向上させます。通常、新しいテスト、新しいモデルカバレッジ、または新しいアプリケーションの追加や強化されたアプリケーションの追加が行われます。

タブレットがインターネットに接続されると、すべての MaxiSys ソフトウェアの利用可能なアップデートが自動的に検索されます。見つかったアップデートは、ダウンロードしてデバイスにインストールすることができます。ここでは、MaxiSys システムのアップデート手順について説明します。

ⓘ 注意

アップデートアプリケーションを使用する前に、タブレットが登録されていることを確認してください。包括的な登録ガイドについては、[Autel ユーザーセンター](#) を参照してください。

➤ ソフトウェアをアップデートするには

1. タブレットの電源を入れ、電源に接続され、安定したインターネット接続があることを確認します。
2. MaxiSys Job Menu から **Update** アプリケーションボタンをタップします。アプリケーションのアップデート画面が表示されます。
3. Update 画面で、特定の項目を更新するには **Get** ボタンをタップし、利用可能なすべての項目を更新するには **Update All** ボタンをタップします。
4. 利用可能なすべてのアップデートの詳細を表示するには、[**More**]をタップします。**取得**]または[**すべて更新**]ボタンをタップして更新することもできます。
5. アップデート中に⏸️ アイコンをタップすると、アップデートが中断されます。▶️ アイコンをタップするとアップデートが再開され、一時停止ポイントから処理が行われます。
6. アップデートが完了すると、ソフトウェアが自動的にインストールされます。新しいバージョンは古いバージョンと置き換わります。

ⓘ 注意

アカウント管理については、「メンバーセンター」タブにお進みください。

12 クイックリンク

クイックリンクアプリケーションを使用すると、Autel の公式ウェブサイトや、テクニカルヘルプ、ナレッジベース、フォーラム、トレーニング、専門的な相談を提供する自動車サービス業界のその他多くの有名サイトに簡単にアクセスできます。

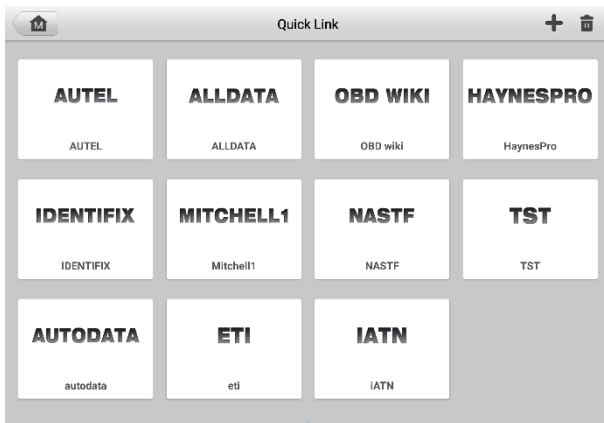


図 -121 クイックリンク画面

- クイックリンクを開くには
 1. MaxiSys Job Menu の **Quick Link** をタップします。クイックリンクアプリケーション画面が表示されます。
 2. メインセクションからウェブサイトのサムネイルを選択します。Chrome ブラウザが起動し、選択した Web サイトが開きます。
- クイックリンクを管理するには
 1. MaxiSys Job Menu の **Quick Link** をタップします。Quick Link アプリケーション画面が表示されます。
 2. 右上の **+** アイコンをタップして Web サイトを追加します。ウェブサイトを削除するには、**🗑** アイコンをタップします。

13 ユーザーフィードバック

User Feedback アプリケーションでは、本製品に関する質問を送信できます。

➤ ユーザーフィードバックを送信するには

1. MaxiSys Job Menu の **User Feedback** をタップします。デバイス情報が自動的に同期されます。

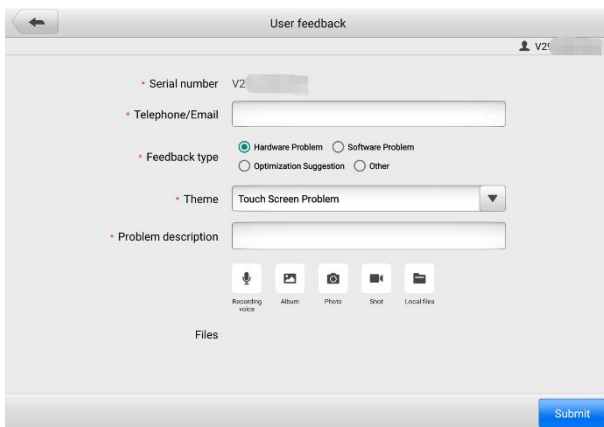
The image shows a screenshot of the 'User feedback' form within the MaxiSys application. The form is presented in a light gray interface. At the top, there's a title bar with a back arrow and the text 'User feedback'. Below this, the form contains several sections: 'Serial number' with the value 'V2', 'Telephone/Email' with an empty text field, 'Feedback type' with four radio button options (Hardware Problem is selected), 'Theme' with a dropdown menu showing 'Touch Screen Problem', and 'Problem description' with an empty text field. At the bottom of the form, there are five icons for attaching files: 'Recording voice', 'Album', 'Photo', 'Shot', and 'Local files'. A blue 'Submit' button is located at the bottom right corner of the form area.

図 -131 *User Feedback* 画面

2. 電話/Eメール、フィードバックの種類、テーマ、問題の説明を設定します。音声記録、写真、スクリーンショット、画像、PDF ファイルを添付することもできます。より効率的に問題を解決するために、できるだけ詳細な情報を入力することをお勧めします。
3. **送信**をタップすると、記入した情報がオーテルのオンラインサービスセンターに送信されます。送信されたフィードバックは、当社のサービス担当者が注意深く読み、処理します。

14 MaxiViewer

MaxiViewer アプリケーションでは、弊社ツールでサポートされている機能やバージョン情報を検索することができます。を検索するには、ツールと車両を検索する方法と、機能を検索する方法の 2 通りがあります。

➤ 車両で検索する場合

1. MaxiSys Job Menu の **MaxiViewer** アプリケーションをタップします。MaxiViewer アプリケーション画面が表示されます。
2. 左上のツール名をタップしてツールリストをドロップダウンします。検索したいものをタップします。
3. 検索したい車両のブランド、モデル、年式をタップします。
4. 選択した車両の選択したツールがサポートするすべての機能が複数の列として表示されます。

➤ 機能から検索するには

1. MaxiSys Job Menu の **MaxiViewer** アプリケーションをタップします。MaxiViewer アプリケーション画面が表示されます。
2. 左上のツール名をタップし、ツールリストをドロップダウンします。検索したいものをタップします。
3. 右上の検索ボックスに検索したい機能を入力します。その機能をサポートしているすべての車両と、車両の年式、システム、機能、サブ機能、バージョンなどの情報が表示されます。

 注意

あいまい検索に対応しています。機能に関するキーワードの一部を入力すると、すべての情報が表示されます。

15 マキシビデオ

MaxiVideo アプリケーションは、タブレットを MaxiVideo デジタル検査カメラに接続するだけで、MaxiSys タブレットをデジタルビデオスコープとして動作するように設定します。この機能により、通常は見えない手の届きにくい場所でも、デジタル静止画や動画を記録して検査することができ、機械、設備、インフラを安全かつ迅速に検査する経済的なソリューションを提供します。

ⓘ 注意事項

1. MaxiVideo デジタル検査カメラとその付属品は追加アクセサリであり、別途 を購入する必要があります。イメージヘッドの両サイズ(8.5 mm と 5.5 mm)はオプションで購入可能です。
 2. この機能は、モデル MV105S、MV108S、MV105、MV108 の MaxiVideo デジタル検査カメラと互換性があります。
 3. タブレットと MaxiVideo デジタル検査カメラを USB ケーブルで接続します。詳しい操作方法については、MaxiVideo デジタル検査カメラのクイック・リファレンス・ガイドを参照してください。
-

16 MaxiScope

MaxiScope アプリケーションは、MaxiScope モジュールとの組み合わせにより、MaxiSys タブレットを車載オシロスコープとして動作するように設定します。この機能は、電気および電子回路テストを実行するために必要なすべての機能を提供するだけでなく、車両の電気システムで実際に何が起きているかを示す、任意の近代的な車両の信号アクティビティを監視します。

MaxiScope 機能の詳細については、www.autel.com > **Products** > **Specialty Tools** > **MaxiScope MP408** > Downloads を参照してください。

17 バッテリーテスト

バッテリー・テスト・アプリケーションは、BT506 バッテリー・テスターを MaxiSys タブレットとバッテリーに接続すると、車載バッテリー・テストおよび車外バッテリー・テスト機能を実行できます。BT506 バッテリー・テスターを使用することで、技術者は車両のバッテリーと電気系統の健康状態を確認することができます。

ⓘ 注意

BT506 バッテリー・テスターは別途購入する必要があります。

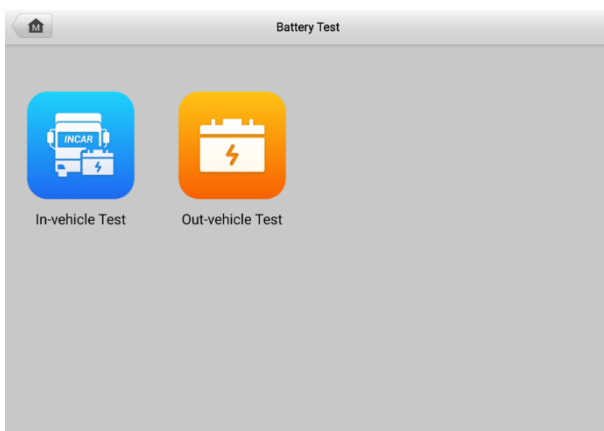


図 -171 バッテリー・テスト画面

17.1 MaxiBAS BT506 バッテリーテスター

17.1.1 機能説明

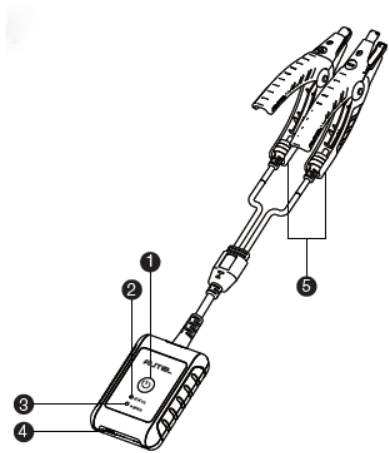


図 -172 MaxiBAS BT506 テスター

- 1. 電源ボタン
- 2. ステータス LED
- 3. 電源 LED
- 4. USB ポート
- 5. バッテリークランプケーブル

表 -171 LED の説明

LED	色	LED 色
ステータス LED	緑点滅	テスターは USB ケーブルで通信しています。
	青の点滅	テスターは Bluetooth 経由で通信しています。
	赤色点滅	バッテリー・クランプが間違ったバッテリー一端子に接続されています。

LED	色	LED 色
電源 LED	緑色点灯	テスターの電源が入っており、バッテリーは十分に充電されています。
	緑点滅	テスターは充電中です。(バッテリーが完全に充電されると緑色に点灯します。)
	赤色点灯	テスターはブートモードです。
	赤点滅	バッテリー残量が少なくなっています。充電してください。

17.1.2 電源

MaxiBAS BT506 テスターは、以下の電源から電力を受け取ることができます：

- 内蔵バッテリーパック
- AC/DC 電源

❗ 重要

温度が 0 °C (32 °F) 以下または 45 °C (113 °F) 以上の場合は、テスターを充電しないでください。

17.1.2.1 内部バッテリーパック

MaxiBAS BT506 バッテリーテスターは、内蔵の充電式バッテリーから電源を供給することができます。

17.1.2.2 AC/DC 電源 - 電源アダプタ使用時

MaxiBAS BT506 バッテリーテスタは、AC/DC 電源アダプタを使用してコンセントから電源を供給することができます。AC/DC 電源は内蔵バッテリーパックの充電も行います。

17.2 技術仕様

表 -172 技術仕様

項目	仕様
接続性	● USB 2.0、タイプ C ● ブルートゥース 4.2
入力電圧	5 V DC
動作電流	< 150 mA(12 V DC 時

項目	仕様
内蔵バッテリー	3.7 V/800 mAh リチウムイオンポリマーバッテリー
CCA 範囲	100～2000 A
電圧範囲	1.5～16 V
使用温度	-10 °C ～ 50 °C (14 °F ～ 122 °F)
保存温度	-20 °C ～ 60 °C (-4 °F ～ 140 °F)
寸法(長さ×幅×高さ)	107 mm(4.21 インチ)×75 mm(2.95 インチ)×26 mm(1.02 インチ)(クランプケーブルは含まず)
重量	320g(0.7 ポンド)

17.3 テスト準備

17.3.1 バッテリーの点検

試験を開始する前に、バッテリーに以下の 点がないか点検してください：

- 亀裂、座屈、液漏れ。これらの欠陥が見つかった場合は、バッ テリを交換してください。
- ケーブルや接続部の腐食、ゆるみ、損傷。必要に応じて修理または交換してください。
- バッテリー端子に腐食があり、ケース上部に汚 れや酸が付着している。ワイヤーブラシと水と重曹を混ぜたものを使 用して、ケースと端子を清掃する。

17.3.2 バッテリーテスターの接続

➤ **MaxiSys** タブレットとペアリングするには

1. MaxiSys タブレットと BT506 バッテリーテスターの両方の電源を入れます。始める前に十分に充電されていることを確認してください。
2. **VCI Manager**> **BAS BT**をタップしてタブレットのBluetoothを有効にします。右上の「**Scan(スキャン)**」をタップします。デバイスがペアリング可能なユニットの検索を開始します。
3. バッテリーテスターの種類によっては、デバイス名の末尾にシリアル番号が付いた「**Maxi**」と表示される場合があります。ペアリングに適切なデバイスを選択します。
4. ペアリングに成功すると、接続ステータスが “**Connected**” と表示されます。

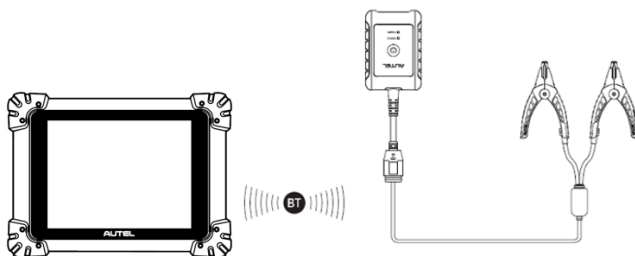


図 -173 バッテリーテスター接続例 1

➤ バッテリーに接続するには

1. 赤いクランプをバッテリーのプラス(+)端子に接続します。
2. 黒のクランプをバッテリーのマイナス(-)端子に接続します。

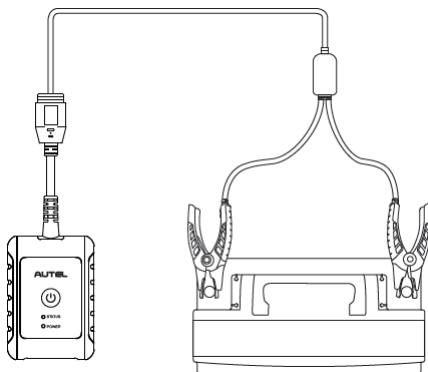


図 -174 バッテリー・テスターの接続例 2

17.4 車載テスト

車載試験は、車両に搭載されたバッテリーを試験するために使用されます。車載テストには、バッテリー・テスト、スタータ・テスト、ジェネレータ・テストが含まれます。これらのテストは、バッテリー、スタータ、ジェネレータの健全性を判断するのに役立ちます。

❗ 重要

ホーム画面で初めて機能にアクセスすると、免責事項が表示されます。エンドユーザー契約をお読みになり、[同意する] をタップして続行してください。[拒否] をタップすると、機能を正しく使用できなくなります。

バッテリーをテストする前に、バッテリーテスターが Bluetooth でタブレットとペアリングされ、バッテリーに正しく接続されていることを確認してください。

➤ 車載テストを開始するには

1. MaxiSys Job Menu の **Battery Test** をタップします。車載テストを選択します。
2. 画面左側の車両情報を確認します。車体番号が入力されていることを確認します。
3. 電圧、タイプ、規格、容量などのバッテリー情報を確認します。**次へ**」をタップして、車載テスト機能を続行します。

Type	Standard	Capacity
FLOODED	CCA	1040
AGM	SAE	1045
AGM SPIRAL	CA	1055
		1060

図 -175 バッテリー情報画面

ⓘ 注意

設定]アプリケーションの[バッテリー・テスト]オプションで、車体番号情報の入力要件を変更できます。この設定を有効にすると、車体番号の入力は必須ではなくなります。

機能にアクセスする際に表示されるボタンのリストについては、以下の表を参照してください：

表 -173 トップツールバーボタン

ボタン	ボタン名	説明
	バッテリー接続	アイコンの値は、テストされたバッテリーのリアルタイムの電圧を示します。バッテリー・テストでは、バッテリーが正常であればボタンは緑色に点灯し、そうでなければ赤色に点灯します。
	次へ	をタップして次に進みます。
	ホーム	バッテリーテストのメイン画面に戻ります。

ボタン	ボタン名	説明
	戻る	前の画面に戻ります。
	終了	ジョブ・メニューに戻ります。

17.4.1 バッテリー・テスト

1. 画面の指示に従います。必要なタスクがすべて完了したら、ボックスにチェックを入れ、**[Start Testing]** をタップします。

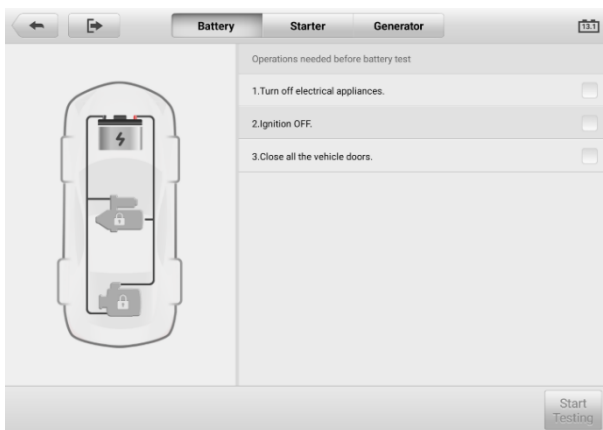


図 -176 バッテリー画面

2. テストが完了するまで待ちます。テスト結果がツールに表示されます。

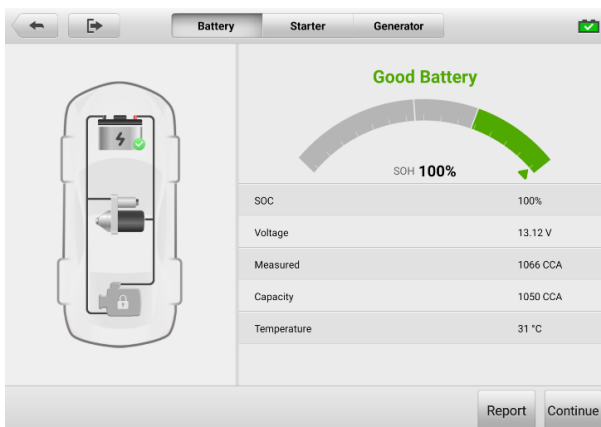


図 -177 バッテリー・テスト結果画面

表 -174 テスト結果

テスト結果	結果 説明
良好 バッテリー	バッテリーは正常です。
良好 & 充電	バッテリーは正常ですが、充電が不十分です。バッテリーを再充電してください。
充電 & 再試験	バッテリーの状態を判断するには充電が必要。
セル不良	バッテリーを交換する。
バッテリーの交換	バッテリーを交換します。

ⓘ **注意**
 スタータテストとジェネレータテストに進む前に、必ずバッテリーテストを完了してください。

17.4.2 スターターテスト

画面の指示に従ってテストを完了します。エンジンを始動し、アイドリングさせます。以下のようにテスト結果が表示されます：

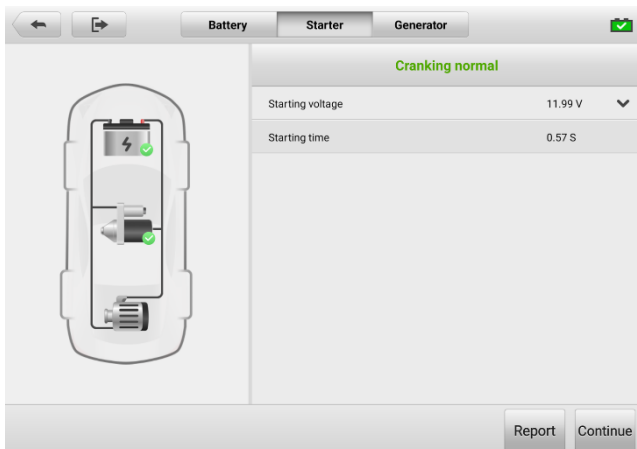


図 -178 スタータ・テストの結果画面

表 -175 スタータ・テストの結果

テスト結果	説明
クランキング 正常	スターターは正常です。
電流が低すぎる。	瞬間放電容量が低い。
電圧が低すぎる	バッテリーの蓄電容量が低い。
未始動	スタータの始動が検出されない。

17.4.3 発電機テスト

画面の指示に従ってテストを完了します。テスト結果は以下のように表示されます：

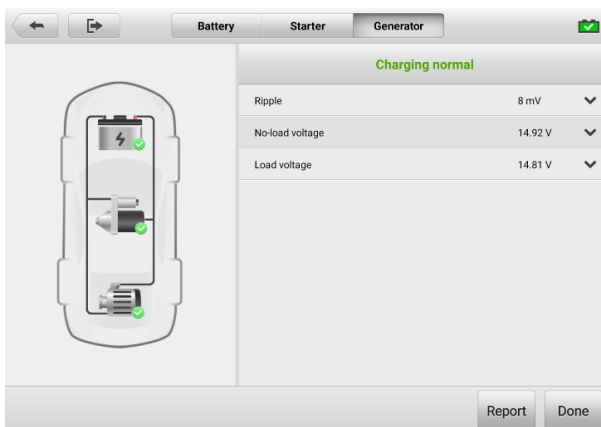


図 -179 ジェネレータテスト結果画面

表 -176 ジェネレータテスト結果

結果	内容
充電正常	発電機は正常に機能しています。
出力が低すぎる	- スターターとジェネレーターをつなぐベルトが緩んでいる； - スターターとバッテリーをつなぐケーブルが緩んでいるか、腐食している。
出力が高すぎる	- 発電機がアースに正しく接続されていない； - 電圧アジャスターが壊れており、交換が必要。
リップルが大きすぎる。	整流ダイオードが壊れている。
出力が出ない	- ケーブルが緩んでいる； - パワー・マネージメント・システムを搭載した一部の車両では、バッテリーの負荷容量が十分であるため、充電のための経路が提供されません； - ジェネレーターまたは電圧アジャスターが故障しており、交換が必要。

17.5 車外テスト

車外テストは、車両に接続されていないバッテリーの状態をテストするために使用されます。この機能は、バッテリーの健康状態のみを確認することを目的としています。

17.5.1テスト手順

- 車外試験を開始するには
 1. テスタークランプをバッテリー端子に接続する。
 2. MaxiSys Job Menu の **Battery Test** をタップします。**車外試験**を選択します。
 3. 適切なバッテリー・タイプ、定格規格、および CCA 値を選択します。**Start Testing** をタップしてテストを開始します。

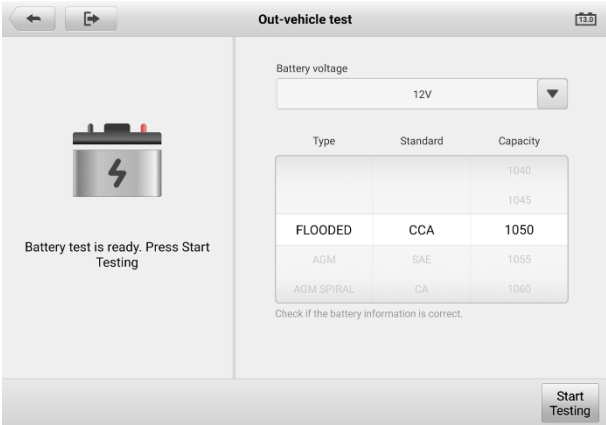


図 -1710 車外試験画面

4. 数秒後にテスト結果が表示されます。

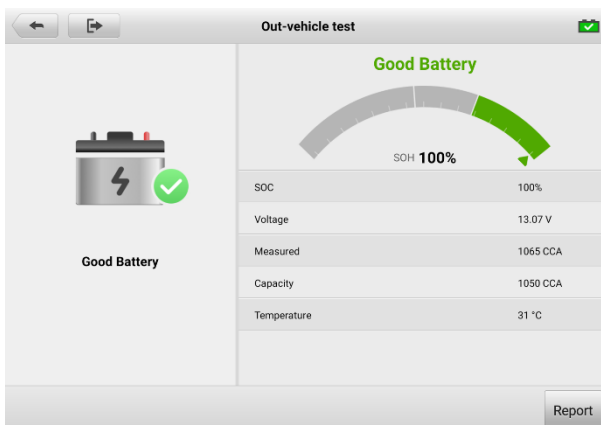


図 -1711 車外試験結果画面

17.5.2 テスト結果

表 -177 車外テストの結果

試験結果	結果 説明
良好 バッテリー	バッテリーが要求基準を満たしている。
良好 & 充電	バッテリーは正常だが、充電残量が少ない。バッテリーを完全に充電する。低充電の原因をチェックする。
充電 & 再試験	バッテリーの状態を判断するには充電が必要です。
バッテリーの交換	バッテリーが業界基準を満たしていない。
セル不良	バッテリーが業界標準に適合していない。

18 Autel ユーザーセンター

ソフトウェアのアップデートは、ご購入から 1 年間は無料でご利用いただけます。Autel User Center アプリケーションでは、ツールを登録して最新のリリースソフトウェアをダウンロードすることで、新しい車種や強化されたアプリケーションをデータベースに追加し、MaxiSys アプリケーションの機能を強化することができます。

製品登録には 2 つの方法があります：

A. MaxiSys タブレット経由

➤ アカウントでログインし、Autel ツールを登録するには

1. MaxiSys Job Menu から **Autel User Center** をタップします。次の画面が表示されます。

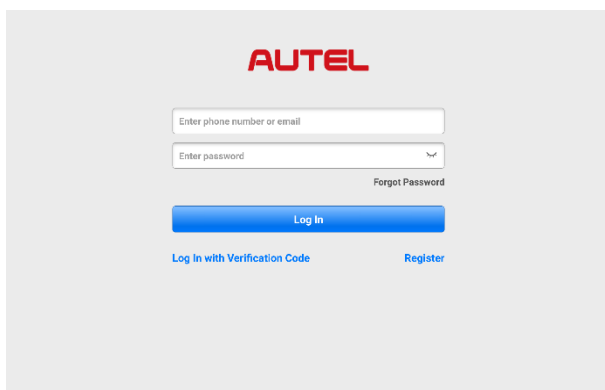


図 -181 Autel User Center 画面

2. Autel ID を既にお持ちの場合は、電話番号と認証コードでログインするか、[パスワードでログイン] をタップして Autel ID とパスワードでログインします。Autel ID をまだお持ちでない場合は、「登録」をタップして Autel ID を作成してください。
3. アカウントが正常に登録されると、Autel User Center のメインメニューに入ります。
4. メインメニューの[デバイス管理]を選択します。

5. デバイス管理] 画面の右上にある [デバイスのリンク] ボタンをタップします。デバイスのシリアル番号とパスワードが自動的に[デバイスのリンク]画面に表示されます。
6. リンク] ボタンをタップして、製品登録を完了します。

B. Autel ウェブサイト経由

➤ Autel ツールを登録するには

1. ウェブサイトにアクセスします: pro.autel.com。
2. Autel アカウントをお持ちの場合は、アカウント ID とパスワードを使用してサインインし、ステップ 7 に進みます。
3. Autel の新規メンバーの場合は、[登録] ボタンをクリックして Autel ID を作成します。
4. 入力フィールドに必要な個人情報を入力します。
5. メールアドレスを入力し、[リクエスト]をクリックします。オーテルから認証コードが記載されたメールが届きます。電子メールを開き、適切な入力ボックスにコードをコピーします。
6. アカウントにパスワードを設定し、確認のため再度パスワードを入力します。**Autel User Service Agreement**と**Autel Privacy Policy**を読み、規約に同意するチェックボックスにチェックを入れます。すべての情報を入力したら、[登録] をクリックします。製品登録画面が表示されます。
7. 登録を完了するには、製品のシリアル番号とパスワードが必要です。ツールのシリアル番号とパスワードを確認するには、[設定]> [バージョン情報]に進みます。
8. 製品登録画面に、ツールのシリアル番号とパスワードを入力します。CAPTCHAコードを入力し、[送信]をクリックして登録手続きを完了します。

19 メンテナンスとサービス

タブレットと組み合わせた VCI ユニットが最適なレベルで動作するように、このセクションで説明する製品のメンテナンス手順を厳守することをお勧めします。

19.1 メンテナンス方法

以下には、機器のメンテナンス方法と注意事項が記載されています。

- タブレットのタッチスクリーンのクリーニングには、柔らかい布とアルコールまたは中性の窓用クリーナーを使用してください。
- 研磨剤入りのクレンザー、洗剤、自動車用化学薬品はタブレットに使用しないでください。
- デバイスは乾燥した状態で、指定の動作温度内に保管してください。
- タブレットを使用する前に手を乾かしてください。タッチスクリーンが湿っていたり、濡れた手でタッチスクリーンをたいたりすると、タブレットのタッチスクリーンが動作しない場合があります。
- デバイスを湿気の多い場所、ほこりの多い場所、汚れた場所に保管しないでください。
- 使用前および使用後は、筐体、配線、コネクタに汚れや損傷がないか確認してください。
- 使用前と使用後は、筐体、配線、コネクタに汚れや損傷がないか確認してください。
- タブレットや VCI ユニットの分解しないでください。
- デバイスを落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
- 正規の充電器および付属品のみを使用してください。認定されていないバッテリー充電器やアクセサリを使用したことによる故障や損傷は、限定製品保証が無効になります。
- バッテリーチャージャーが導電性の物体に接触しないようにしてください。
- 信号の干渉を防ぐため、電子レンジ、コードレス電話、一部の医療機器や科学機器のそばでタブレットを使用しないでください。

19.2 トラブルシューティングチェックリスト

A. タブレットが正常に動作しない場合

- タブレットがオンライン登録されていることを確認する。
- システムソフトウェアと診断アプリケーションソフトウェアが適切に更新されていることを確認します。
- タブレットがインターネットに接続されていることを確認します。
- すべてのケーブル、接続、インジケータを確認し、信号が受信されていることを確認します。

B. バッテリー駆動時間が通常より短い場合：

- 電波強度が低い場所にいる場合に発生することがあります。使用していない場合は、デバイスの電源を切ってください。

C. タブレットの電源が入らない場合

- タブレットが電源に接続されているか、バッテリーが充電されていることを確認してください。

D. タブレットが充電できないとき

- 充電器が故障している可能性があります。最寄りの販売店にお問い合わせください。
- 高温または低温の場所でデバイスを使用しようとしている可能性があります。涼しい場所または暖かい場所でデバイスを充電してください。
- デバイスが充電器に正しく接続されていない可能性があります。コネクタを確認してください。

④ 注意

問題が解決しない場合は、オーテルの技術サポート担当者または最寄りの販売代理店にお問い合わせください。

19.3 バッテリーの使用について

タブレットにはリチウムイオンポリマー電池が内蔵されており、電気が残っているときに充電することができます。

⚠ 危険

内蔵のリチウムイオンポリマーバッテリーは工場でのみ交換可能です。不適切な交換やバ

バッテリーパックの改造は爆発の原因となることがあります。

- 破損したバッテリー充電器を使用しないでください。
- バッテリーを分解したり、開けたり、押しつぶしたり、曲げたり、変形させたり、穴を開けたり、細断したりしないでください。
- バッテリーを改造、再製作したり、バッテリーに異物を挿入しようとしたり、バッテリーを火災、爆発、その他の危険にさらさないでください。
- 指定の充電器および USB ケーブルのみを使用してください。Autel 非認可の充電器または USB ケーブルを使用すると、デバイスの誤動作または故障につながる可能性があります。
- 非正規のバッテリーまたは充電器を使用すると、火災、爆発、漏電、またはその他の危険のおそれがあります。
- タブレットを落とさないようにしてください。タブレットを落下させた場合、特に硬い表面に落下させた場合で、損傷が疑われる場合は、タブレットをサービスセンターに持ち込み、点検を受けてください。
- バッテリーの消費を抑えるため、ワイヤレスルーターの近くに置くようにしてください。
- 充電に必要な時間は、バッテリーの残量によって異なります。
- バッテリーの寿命は時間の経過とともに必然的に短くなります。
- 過充電はバッテリーの寿命を縮める可能性があるため、タブレットが完全に充電されたら充電器を抜いてください。
- バッテリーは暖かい環境で保管してください。バッテリーの容量や寿命が短くなる可能性があります。

19.4 サービス手順

この章では、テクニカルサポート、修理サービス、交換 部品やオプション部品のお申し込みについて説明します。

19.4.1テクニカルサポート

製品の操作方法についてご不明な点やお困りのことがございましたら、下記までご連絡ください。

オーテル中国本社

- 電話番号+86(0755)8614-7779(月～金、北京時間午前 9 時～午後 6 時)

- 電子メール support@autel.com
- 住所中国深圳市南山区西里小区松屏山社区ハイテク北六路 36 号彩虹科技大厦 2 階
- ウェブ: www.autel.com

オーテルノースアメリカ

- 電話番号 1-855-288-3587(月～金、東部時間午前 9 時～午後 6 時)
- 電子メール ussupport@autel.com
- 住所 36 Harbor Park Drive, Port Washington, New York, USA 11050
- ウェブ www.autel.com/us

オーテルヨーロッパ

- 電話番号+49(0)89 540299608 (月～金、ベルリン時間午前 9 時～午後 6 時)
- E メール support.eu@autel.com
- 住所 Landsberger Str. 408, 81241 München, Germany
- ウェブ: www.autel.eu

オーテル APAC

日本

- 電話番号+81-045-548-6282
- E メール support.jp@autel.com
- 住所 222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜 3-7-7 アリナドリビル 6 階
- ウェブ www.autel.com/jp

オーストラリア

- 電子メール: ausupport@autel.com
- 住所ユニット 5、25 ベロニカストリート、カパラバ

オーテル IMEA

- 電話番号+971 585 002709 (アラブ首長国連邦内)
- 電子メール imea-support@autel.com
- 住所 906-17, Preatoni Tower (Cluster L), Jumeirah Lakes Tower, DMCC, Dubai, UAE
- ウェブ: www.autel.com

オーテル・ラテンアメリカ

メキシコ

- 電話番号+52 33 1001 7880(メキシコではスペイン語)
- Eメール latsupport@autel.com
- 住所メキシコ、ハリスコ州グアダラハラ、コロニア・アルドレテ、アベニーダ・アメリカス 1905、6B

ブラジル

- Eメール brsupport@autel.com
- 住所 Avenida José de Souza Campos n° 900, sala 32 Nova Campinas
カンピーナス - SP, ブラジル
- ウェブ www.autel.com/br

19.4.2 修理サービス

修理のためにデバイスを返送する必要がある場合は、www.autel.com から修理サービスフォームをダウンロードし、必要事項をご記入ください。以下の情報を必ずご記入ください：

- ご連絡先
- 返送先住所
- 電話番号
- 製品名
- 問題の詳細
- 保証修理のための購入証明書
- 非保証修理の場合のご希望のお支払い方法

🔗 注意事項

非保証修理の場合、Visa、Master Card、または承認されたクレジット条件でのお支払いが可能です。

最寄りの代理店、または下記住所までお送りください：

中国深圳市南山区西里小区松屏山社区ハイテク北六路 36 号彩虹科技大厦 2 階

19.4.3 その他のサービス

オプションのアクセサリは、オーテルの正規ツールサプライヤー、または最寄りの代理店または販売店から直接ご購入いただけます。

ご購入の際は、以下の情報をお知らせください：

- 連絡先情報
- 製品名または部品名
- 品目の説明
- 購入数量

20 コンプライアンス情報

FCC コンプライアンス
MS908S2122

FCC ID:WQ8-

本装置は、FCC 規則のパート 15 に従ったクラス B デジタルデバイスの制限に準拠していることがテストにより確認されています。これらの制限は、住宅での設置において有害な干渉から妥当に保護するように設計されています。本装置は、無線周波数エネルギーを発生させ、放射する可能性があり、説明書に従って設置および使用されない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。ただし、特定の設置場所で干渉が発生しないという保証はありません。本機器がラジオやテレビの受信に有害な干渉を引き起こす場合は、本機器の電源を切ったり入れたりすることで判断できます：

- 受信アンテナの向きを変えるか、場所を変える。
- 機器と受信機の距離を離す。
- 販売店または経験豊富なラジオ/テレビ技術者に相談する。

このデバイスは、FCC 規則のパート 15 に準拠しています。操作は次の 2 つの条件に従います：

- (1) 本装置は有害な干渉を引き起こさないこと。
- (2) このデバイスは、望ましくない動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信したあらゆる干渉を受け入れなければなりません。

コンプライアンスに責任を負う当事者によって明示的に承認されていない変更または修正は、装置を操作するユーザーの権限を無効にする可能性があります。

SAR

このデバイスの放射出力電力は、FCC 無線周波数暴露制限を下回っています。それでもなお、本装置は、通常の操作中に人体に接触する可能性が最小限になるような方法で使用する必要があります。

無線機器の暴露基準は、比吸収率 (SAR) として知られる測定単位を採用しています。FCC が定める SAR の上限は 1.6W/Kg である。SAR のテストは、FCC が認める標準的な動作位置を使用し、テストされたすべての周波数帯域において、デバイスが認証された最高出力レベルで送信される状態で実施される。

SAR は認証された最高電力レベルで決定されますが、動作中のデバイスの実際の SAR レベル () は、最大値をはるかに下回る可能性があります。これは、ネットワークに到達するために必要な電力のみを使用するように、デバイスが複数の電力レベルで動作するように

設計されているためです。FCC 無線周波数暴露制限を超える可能性を避けるため、アンテナへの人間の接近を最小限にする必要があります。

RF 警告文

このデバイスは、一般的な RF 暴露要件を満たすように評価されています。このデバイスは、制限なく携帯可能な暴露条件で使用できます。

RoHS 準拠

このデバイスは、欧州 RoHS 指令 2011/65/EU に準拠しています。

CE 準拠

本製品は、以下の指令の必須要件に適合することを宣言し、それに従って CE マークを表示しています：

無線機器指令 2014/53/EU

21 保証期間

12 ヶ月保証

Autel Intelligent Technology Corp.(Autel Intelligent Technology Corp. 社(以下、当社))は、この診断用タブレットの最初の小売購入者に対し、購入日から 12 ヶ月以内に、正常な使用状態において、本製品またはその一部に材料または製造上の欠陥があり、製品に不具合が生じた場合、当社の選択により、その欠陥に直接関連する部品または工賃を無償で修理、または購入証明書と交換(新品またはリビルト部品)することを保証します。



注

保証期間が現地の法令と異なる場合は、現地の法令に従ってください。

当社は、本装置の使用、誤用、または取り付けに起因する偶発的または結果的な損害について、一切の責任を負いません。州によっては、黙示的保証の存続期間の制限が認められていないため、上記の制限が適用されない場合があります。

本保証は以下のものには適用されません：

- a) 異常な使用または状態、事故、誤った取り扱い、不注意、無許可の改造、誤用、不適切な設置または修理、不適切な保管を受けた製品；
- b) 機械的なシリアル番号または電子的なシリアル番号が削除、変更、または汚損された製品；
- c) 過度の温度または極端な環境条件にさらされたことによる損傷；
- d) 当社が承認または認可していない付属品またはその他の製品との接続または使用に起因する損害；
- e) フレームや作動しない部品など、外観、化粧品、装飾、構造上の欠陥。
- f) 火災、汚れ、砂、バッテリーの液漏れ、ヒューズの溶断、盗難、電気ソースの不適切な使用など、外的要因によって破損した製品。



重要

修理の過程で、製品のすべてのコンテンツが削除される場合があります。保証サービスを受ける前に、製品の内容のバックアップコピーを作成する必要があります。

